目　次

１年生・４年生

心肺蘇生法実習 …… 80

２年生～４年生

漢方医学入門 …… 82

４年生

1. 臨床臓器別講義総論 …… 215
2. 臨床スターター実習(OSCE) …… 217
3. プライマリケア医学コース …… 220
4. 外来型 CC …… 222

５年生

1. ユニット型ＣＣ総論 …… 225

ユニットＡ

2. 循環器内科 …… 227
3. 心臓血管外科 …… 230
4. 法医学ＣＣ …… 233
5. 呼吸器内科 …… 235
6. 呼吸器外科 …… 237
7. 感染症内科 …… 239
8. 総合診療センター …… 241

ユニットＢ

9. 消化器内科 …… 243
10. 肝胆膵内科 …… 247
11. 消化器外科 …… 249
12. 肝胆膵外科 …… 251
13. 放射線科・放射線治療科、核医学 …… 253
14. 病理診断科 …… 255
15. 医療安全学 …… 257

ユニットＣ

16. 代謝内分泌・腎臓内科 …… 259
17. 乳腺・内分泌外科 …… 263
18. 泌尿器科 …… 265
19. 皮膚科 …… 268
20. 形成外科 …… 270
21. 整形外科 …… 273

ユニットD
22. 神経精神科 …… 275
23. 神経内科 …… 278
24. 眼科 …… 281
25. 耳鼻咽喉科 …… 283
26. 脳神経外科 …… 285
ユニットE
27. 産婦人科 …… 289
28. 小児科 …… 292
29. 小児外科 …… 294
30. 血液内科 …… 296
31. 麻酔科 …… 299
32. 救命救急科 …… 301
33. 拡大ＣＰＣ …… 304

６年生
1. 選択型ＣＣ …… 307
2. 保健所・保健福祉センター実習 …… 310

開講年度 2019 年

科目名	心肺蘇生法実習	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3101
英語表記	Basic Life Support Training						

● 担当教員

教務委員長、教務委員、ライフサポートクラブ(LSC)

● 科目の主題

目前で発生した心肺停止などの緊急事態に際して、心肺蘇生法の意義を理解して施行できる。医療行為にかかわることで、将来医師になる自覚を萌芽(1 年生)・再確認 (4 年生) させる。

さらに 1 年生を指導することで、4 年生に Teaching is Learning 効果を体感させる。これにより、医師は常に「教育者」であることを自覚させる。

● 授業の到達目標

1. 一次救急処置の概略を説明できる。
2. 傷病者の意識の確認ができる。
3. 119 番通報と AED の要請ができる。
4. 気道の確保ができる。
5. 呼吸の確認ができる。
6. 胸骨圧迫心臓マッサージができる。
7. AED を使用できる。

● 授業内容・授業計画

各学年を 4 グループに分け実施する。グループ分けは掲示板にて周知する。

開講日　掲示板にて周知する。
　　前半グループ開始時間：17：00～18：00
　　後半グループ開始時間：18：10～19：10
場　所　スキルスシミュレーションセンター

1 年生は開始 10 分前にメディックスビル 8 階会議室 2 へ集合

4 年生は開始 30 分前にスキルスシミュレーションセンター内アネックス集合

● 事前・事後学習の内容

4 年生で後輩指導に自信のない人は、最寄りの LSC メンバーに相談して、実習日までに復習しておくこと

● 評価方法

実習への参加、小テスト、アンケート記入をもって修了とする。

● 受講生へのコメント

1 年生のみなさんも 3 年後にはインスト側にまわるので、教え方も十分に観察しておくこと。

● **教材**

● **対象学年**

1 年生・4 年生

● **コアカリキュラムへの対応**

A 医師として求められる基本的な資質・能力

A-2 医学知識と問題対応能力

A-2-2) 学修の在り方

G 臨床実習

G-3 基本的臨床手技

G-3-4) 救命処置

G-4-4) シミュレーション教育

● **その他**

動きやすい服装を着用すること（スカートやヒール靴を避けること）

開講年度 2019 年

科目名	漢方医学入門	単位数	ー	授業形態	講義	科目ナンバー	ー
英語表記	Introduction for Kampo Medicine						

● 担当教員

河邉　譲治（核医学）2 年　総論　4 年　各論
柳原　茂人（近畿大学）2 年　総論　4 年　各論
寒川　慶一（同源院薬局）3 年　各論
森村　美奈（総合医学教育学）4 年　各論
中本　佳代子（大阪漢方振興財団附属診療所）4 年　各論

● 科目の主題

西洋医学とは異なる医学体系である漢方医学の概略を学ぶコースである。二千年以上の伝統がある漢方医学に触れ、西洋医学とは違った視点の臨床診療に役立つ診断法、薬剤があることを学ぶのが目的である。

● 授業の到達目標

漢方医学の成り立ちがわかるようになる。
漢方医学と西洋医学の大きな違いを理解し、言及できる。
漢方薬に用いられる代表的生薬について名称や働き、副作用について言及できる。
代表的漢方薬と処方すべき病態について理解し言及できる。

● 授業内容・授業計画

月/日	時間	対象学年	担当者	所属	講義場所	講義主題
10/3（木）	10:10～11:10	2	河邉 譲治	核医学	小講義室 2	漢方とは？その原理と考え方
	9:00～10:00	2	柳原 茂人	近畿大学	小講義室 2	漢方医学史
	10:10～11:10	4	柳原 茂人	近畿大学	小講義室 1	漢方臓腑論（五臓六腑の概念と皮膚科漢方症例、漢方における副作用等）
	9:00～10:00	4	河邉 譲治	核医学	小講義室 1	不定愁訴の漢方（梅核気・瘀血など）
10/17（木）	15:10～16:10	4	森村 美奈	総合医学教育学	小講義室 1	婦人科漢方を中心に(三大漢方婦人薬の発想からの臨床応用について)
	14:00～15:00	4	中本佳代子	大阪漢方振興財団附属診療所	小講義室 1	実臨床に役に立つ弁証と治方（舌診・脈診/生薬について、を含む）
2/5（水）	2 限・3 限	3	寒川 慶一	同源院薬局	中講義室 1	生体と薬物（和漢薬）

● 事前・事後学習の内容

□　河邉の講義に関しては、講義の 1 週間前までに授業で用いるレジメの pdf を
ブログ市大漢方（https://shidaikanpou.blogspot.jp/）で告知するので各自ダウンロードしてください。

● **評価方法**

出席を重視して評価
4年次は小テストを行う場合もあり

● **受講生へのコメント**

とにかく漢方に興味を持ってもらいたい。漢方を知ると臨床医として治療の幅が広がる。

● **教材**

スライド､プリント､生薬等

● **対象学年**

2年生・3年生・4年生

● **コアカリキュラムへの対応**

F 診療の基本　2基本的診療知識　8）薬物治療の基本原理　⑬ 漢方医学の特徴や、和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用を概説できる

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● **その他**

特になし

開講年度 2019 年

科目名	臨床臓器別講義　総論	単位数	ー	授業形態	講義	科目ナンバー	MACLI3401
英語表記	Lectures On Each Organ						

● 担当教員

コース主任　教務委員長

各コースの担当教員参照

● 科目の主題

臨床臓器別講義では、内科、外科等の講座毎ではなく消化器、循環器、内分泌・代謝等の臓器別のコースを複数の講座で横断的に統合して講義を行っている。医療系大学間共用試験実施機構が行う共用試験（CBT、OSCE）に向けて、必要な各臓器の正常機能と検査法、さまざまな疾患の病態生理から病因、診断そして治療までを系統的に学習することを目的としている。

● 授業の到達目標

《一般目標》

本学コンピテンスである「医学および関連領域の知識」として臓器別で正常から疾患に至るまでの知識を学び、参加型臨床実習に向けて必要な基礎知識を習得すること。

《到達目標》

・各臓器の正常機能を理解し、その検査法と検査の概略を理解する。
・基礎医学の知識を応用して、各疾患の病態生理と症候を理解する。
・各疾患の病因、診断そして治療を理解する。
・臨床現場での諸問題について基本的事項と概略を理解する。

● 授業内容・授業計画

各コースの日程表参照

● 事前・事後学習の内容

各コースの事前・事後学習や参考資料を参照

● 評価方法

筆記試験を各コース毎に行います。

総合結果 60%未満の点数もしくは各コース 60%未満の点数のとき再試験を行うが、不合格コース（欠席コース含む）が 10 コース以上あった場合、コース再試験をうけることができません。体調不良による試験欠席は、診断書を添え、「欠席届」・「追試願」を試験日より 1 週間以内に学務課へ提出してください。

● 受講生へのコメント

医療系大学間共用試験実施機構が行う共用試験（CBT、OSCE）で問われる範囲にこだわらず、間もなく始まる参加型臨床実習に必要な基礎知識となります。今後、国家試験、研修医そして医師になっても必要な知識の習得をする大切な講義です。また、一部では各コースでの最先端の話題に触れることになり、「科学的探究心」を培うことにもつながります。

● **教材**

各講座の教材を参照

● **対象学年**

3 年生、4 年生

● **コアカリキュラムへの対応**

D のすべて　人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療

E のすべて　全身におよぶ生理的変化、病態、診断、治療

F-1　症候・病態からのアプローチ

F-2　基本的診療知識

● **該当するコンピテンス**

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅴ 科学的探究心 （智）

● **その他**

開講年度 2019 年

科目名	臨床スターター実習 （共用試験 OSCE）	単位数	―	授業形態	講義	科目ナンバー	MA CLI3402
英語表記	Introduction to Clinical Clerkships(OSCE)						

● 担当教員

- 各臨床診療科教員および医師
- 非常勤講師

新谷　雅司(山本第 3 病院　総副院長)
池邉　孝(東住吉森本病院　救急・総合診療部部長)
竹中　裕昭(竹中医院　副院長)
森村　美奈(なにわ生野病院 産婦人科)
新藤　光郎(南大阪病院臨床教育部部長)
谷口　恭(太融寺町谷口医院　院長)
則岡　直樹(のりおかクリニック 院長)
衣畑　成紀(阪神野田駅前ファミリークリニック 院長)

● 科目の主題

臨床スターター実習では、診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships：CC）開始前までに修得しておくべき医学的知識をより実践的に活用できるよう講義、シミュレーター実習など活用し、小人数で知識を実際に応用して学習する機会を盛り込むようにプログラムされている。

● 授業の到達目標

《一般目標》

診療参加型臨床実習に必要な態度・技能・知識を習得する。

《到達目標》

(1) 診察技法

以下の項目の要点を説明して模擬患者もしくはシミュレーターで実施できる。

1) 医療面接
2) 全身状態の把握
3) バイタルサインの測定
4) 頭頚部診察
5) 胸部診察
6) 腹部診察
7) 神経診察
8) 四肢と脊柱
9) 救急

(2) 治療手技

以下の手技の要点を説明して実施できる（一部はシミュレーター)。

1) 簡単な診察器具の使用（聴診器，打腱器，血圧計，舌圧子，眼底鏡，耳鏡，心電図、エコー）
2) 採血，注射，点滴
3) 縫合結紮
4) 手洗い，ガウンテクニック
5) 救急蘇生，BLS，気道確保，人工呼吸法，体外心臓マッサージ法

(3) 態　　度

臨床実習で必要な態度・マナーについて説明し実施できる。

● 授業内容・授業計画

診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度の習得を目的とする。具体的には、共用試験(Objective Structured Clinical Examination :OSCE)に準じ、医療面接、全身状態とバイタルサイン、頭頚部、胸部、腹部、神経、(四肢と脊柱)、基本的臨床手技、救急の各分野を専門医師の指導のもとに学習する。また、医療面接実習においては、学習者同士に留まらず、“患者”を役割演技する模擬患者にも参加していただき、実践的な学習、患者目線からのフィードバックが受けられるようになっている。その他、採血実習や超音波実習では、シミュレーター実習の後、医師の指導のもと学習者同士での実習へと段階的に進めていく。
※臨床スターター実習時間割の詳細については別紙を参照

● 事前・事後学習の内容

臨床スターター実習では、実習での学習成果向上のために e-learning システム(Moodle)を用いた事前学習システムを導入している。具体的には、学習者は実習前に共用試験 OSCE 教育・学習用 DVD を視聴し、内容の理解度を e-learning システム(Moodle)を用いた小テストを用いて確認する事ができるようになっている。また、事後学習として修了テストが用意され、Moodle を用いて試験を受けることができる。

● 評価方法

OSCE・CBT に合格していることが進級の条件である。

● 受講生へのコメント

医師に求められる資質として、知識、技能、態度の 3 つがよく挙げられます。本コースでは、これまでの知識重視、講義中心の学習形態から、技能や態度重視な学習形態に変わっていきます。医師としての基盤が萌芽される重要な実習期間ですので、来るべき共用試験 CBT、OSCE に合格する事に留まらず、医師として働く自分をしっかりと意識して参加してもらいたいと思います。

● 教材

OSCE 学習者用資料
共用試験 OSCE 教育・学習用 DVD
人体部分模型、シミュレーター、診察器具、医療機器
学生同士のロールプレイ、模擬患者を交えたロールプレイ

● 対象学年

4 年生

● コアカリキュラムへの対応

A 医師として求められる基本的な資質・能力（プロフェッショナリズム、医学知識と問題対応能力、診療技能と患者ケア、コミュニケーション能力、医療の質と安全の管理、生涯にわたって共に学ぶ姿勢）
F 診療の基本（基本的診療知識、基本的診療技能）
G 臨床実習（基本的臨床手技）

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● **その他**

開講年度 2019 年

科目名	プライマリケア医学コース	単位数	ー	授業形態	実習講義	科目ナンバー	ー
英語表記	Primary Care Training course						

● 担当教員

・外来診療学/家庭医療学：医学部同窓会依頼医師（非常勤講師）

板金　広（いたがねファミリークリニック　院長）　　松村　榮久（松村医院　院長）
伊賀　幹二(伊賀内科　院長)　　出雲谷　剛(笹尾医院　院長)
佐田　竜一（亀田総合病院総合内科）　　小林　正宜（葛西医院　院長）

● 科目の主題

プライマリケアとは、家族及び地域という枠組みの中で、緊急の場合の対応から健康診断の結果についての相談までを幅広く行う医療のことである。本コースでは、診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships：CC）開始前までに修得しておくべきプライマリケアに必要な知識を包括的かつ実践的に活用できるよう、プライマリケアの最前線を担う医師が中心になり行われる。具体的には、全体講義ならびに小グループによる問題基盤型学習（Problem Based Learning：PBL）、症例基盤型学習を実施し課題探求・解決能力の身につける。

● 授業の到達目標

《一般目標》

プライマリケアに必要な態度・知識、問題解決能力を習得する。
自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける

《到達目標》

(1) 態　　度
1) プライマリケアで必要な態度・マナーについて説明し実施できる。
2) プライマリケアの必要性を理解し、説明できる。
3) 地域医療連携，機能分担について説明できる。

(2) 知　　識
1) 経験すべき主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概略を発達、成長、加齢ならびに性別と関連付けて述べることが出来る。
ショック、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、痰・咳、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食思不振、便秘・下痢、吐血・下血、腹部膨満・腫瘤、蛋白尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛
2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる
3) 医療安全管理について説明できる。
4) 代替医療（東洋医学を含む）について説明できる。
5) Evidenced Based Medicine（EBM）について説明できる。
6) 医学文献を検索することができる。

(3) 問題解決能力
1) 自学自習により情報を収集することができる。
2) 科学的根拠に基づいた論理的思考を身につける。
3) プレゼンテーション技能およびコミュニケーション技能を身に付ける。

4）問題点を説明できる。
5）問題解決のための方策を説明できる。

● 授業内容・授業計画

大学病院や大規模総合病院では経験することが少ない common disease に対するプライマリケアについて症候学の観点から学習する。つまり、“病院医療”とは異なった“地域医療”の目線から、疾患の病態生、診断そして治療までを系統的に学習することを目的としている。また、グループ学習で行うため、将来のチーム医療に欠かすことのできないコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上の習得も目指す。

また、医療安全、医学文献検索、 代替医療（東洋医学を含む）についても実践的に学習できる内容を盛り込んでいる。

● 事前・事後学習の内容

臓器別講義で修得した内容について復習しておく。

● 評価方法

すべての講義、実習への出席を必須とする。症候学では最終日に試験を行う。

● 受講生へのコメント

本コースでは、これまで臓器別に学習してきた疾患概念を症候学別に捉えなおし、より実践的な力を身につけることを目標とします。

● 教材

講義、スライド、症例提示

● 対象学年

4 年生

● コアカリキュラムへの対応

A 医師として求められる基本的な資質・能力（医師としての責務と裁量権、医学的知識と問題対応能力、学修の在り方、チーム医療の実践、社会における医療の実践、科学的探究、生涯にわたって共に学ぶ姿勢）
F 診療の基本（症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識）

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

開講年度 2019 年

科目名	外来型 CC （外来型クリニカルクラークシップ）	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	ー
英語表記	CC in the outpatient clinics						

● 担当教員

各臨床診療科教員および医師

● 科目の主題

診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships：CC）の導入として、外来診療を行っている現場において実習を行う。実際の患者さんを相手にした診療業務を通じて、どの診療科の医師になるとしても必要な医療面接、診療記録とプレゼンテーションを実践的に身につけることを目標とする。

● 授業の到達目標

到達目標の詳細は別紙、診療参加型臨床実習のための学習ガイドに記載している。重要な項目を以下に記載する。

Ⅰ． プロフェッショナリズム

患者のニーズを認識し、そのニーズに合わせることができる

患者情報の守秘義務と情報提供の重要性を理解し、患者のプライバシーに配慮できる

上級医に対して適切な報告、連絡、相談ができる

利他的な行動をとることができる

Ⅱ． コミュニケーション力

患者の人格を尊重し、訴えを真摯に傾聴することができる

現病歴、既往歴、家族歴、生活歴などの病歴を適切に聴取することができる

他職種医療職者、他医師と適切なコミュニケーションをとることができる

受け持ち症例に関して定型的なプレゼンテーションができる

適切に患者の情報を収集し、問題志向型診療記録を作成できる

基本的検査の所見を解釈できる

● 授業内容・授業計画

事前に学務課より配属された外来部署にて外来実習を行う。配属先や期間については別紙を参照の事。本実習では、割り当てられた患者に付き添い、予診(問診)を行う。その後、初診担当医師に情報収集した内容を簡潔にプレゼンテーションし担当医師の診療に参加、診療内容をカルテに記載する。その他の時間帯は、外来部署の一員として、医療職の監督のもと外来業務の補助につく。担当した患者については、原則、午後から行われる症例検討会でプレゼンテーションを行う。

● 事前・事後学習の内容

症例検討会に向けて、担当患者の病歴、身体所見、各種検査結果、鑑別診断、治療方針等の知識整理を行うこと。事前準備にあたってはグループ全体で行うことを推奨する。チーム基盤型学習（Team-Based Learning）を行うことで、多くの症例を間接的にも経験できること、多くの気づきが得られること、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上につながる。

● 評価方法

外来型 CC の最後に①外来診療症例リスト・指導に関わる医師評価表を学務課へ提出。2 週間の実習終了毎に②自己評価表、③指導体制医師評価表を Moodle から提出。①作成においては必ず担当医師からの評価を受けること。外来型 CC についての評価は、5 年生のユニット型 CC においての評価に取り入れる。

● 受講生へのコメント

CC とは、病院という医療の現場で、学生が主体となり、患者様との関わりの中から臨床を学ぶ臨床参加型の実習方式です。「患者さんに敬意をもって接する」、「積極的な姿勢で、医療知識技術を身につける」ことを忘れず、Student Doctor としての自覚をもって臨んでほしいと思います。

● 教材

学習ガイド

● 対象学年

4 年生

● コアカリキュラムへの対応

A 医師として求められる基本的な資質・能力（プロフェッショナリズム、医学知識と問題対応能力、診療技能と患者ケア、コミュニケーション能力、チーム医療の実践、医療の質と安全の管理、社会における医療の実践、科学的探究、生涯にわたって共に学ぶ姿勢）

F 診療の基本（症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識、基本的診療技能）

G 臨床実習（診察の基本、臨床推論、基本的臨床手技、診療科臨床実習）

● 該当するコンピテンス

「授業の到達目標」参照

● その他

開講年度 2019 年

科目名	ユニット型 CC 総論 （ユニット型クリニカルクラークシップ）	単位数	ー	授業形態	講義	科目ナンバー	MA CLI3501
英語表記	Core CC						

● 担当教員

各臨床診療科教員および医師

● 科目の主題

医学教育の最終段階における本臨床実習では、卒後には医師としての第一歩を踏み出すことができるよう、診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、医学知識・臨床推論法、技能、態度などを実践的に身に着けることを目標とする。医師という専門性の高い職種の社会的責任を意識し、十分な実務経験を重ねることを望む。

● 授業の到達目標

大阪市立大学医学部では、学生が卒業時に身に付けていることが期待される能力として以下の 8 つの大領域（コンピテンス）を設けている。各コンピテンスの到達目標は診療科ごとに異なっているため診療参加型臨床実習のための学習ガイド（以下、別紙）を参照のこと。以下に最終到達目標を記載する。

Ⅰ プロフェッショナリズム：専門職としての道徳性・倫理性を持ち、患者のニーズに的確に対応できる

Ⅱ コミュニケーション力：様々な人を区別なく温かく受け入れる心を持ち、かつ幅広い視野を持つことができる

Ⅲ 医学および関連領域の知識：基礎医学と臨床医学をバランスよく修得し、医学知識と技術に秀でる

Ⅳ 基本的総合診療能力：全人的医療が実践できる

Ⅴ 科学的探求心：科学的思考に基づいた判断力・問題解決ができる

Ⅵ 教育マインド：良質な医療の裾野が広がるよう後継者を育成できる

Ⅶ グローバルシンキング：国際的視野を持ち、世界に貢献する志を持つ

Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力：市民の保健医療ニーズに応えうることができる

● 授業内容・授業計画

本実習では以下のユニットに８週間ずつ配属される。

ユニットＡ：循環器内科、心臓血管外科、法医学、呼吸器内科、呼吸器外科、感染症内科、総合診療センター

ユニットＢ：消化器内科、肝胆膵内科、消化器外科、肝胆膵外科、放射線科･放射線治療科・核医学、病理診断科、医療安全学

ユニットＣ：代謝内分泌・腎臓内科、乳腺・内分泌外科、泌尿器科、皮膚科、形成外科、整形外科

ユニットＤ：神経精神科、神経内科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科

ユニットＥ：産婦人科、小児科、小児外科、血液内科、麻酔科、救命救急科

各ユニットの授業内容や授業計画については、別紙を参照のこと。

● 事前・事後学習の内容

別紙に各診療科の到達目標が明記されている。実習内容を事前に把握できるようにしているため、各ユニット、各診療科の実習前には必ず読んでおくようにする。

● 評価方法

別紙、診療参加型臨床実習のための学習ガイドに各ユニット、各診療科の①自己点検評価表、②症例リスト、③患者アンケート 、④指導体制医師評価表(Moodle より提出)が添付されている。①②④は学習者が記載(④は入力)する。また、ユニット終わりには、客観的臨床能力試験 OSCE を施行し臨床技能の質的評価を行う。これらの評価表は進級判定の材料となる。

● 受講生へのコメント

医師になる前の重要な実習です。可能な限りチームの一員として診療に携わり、これまでの講義で学んできた知識が、実際の医療現場でどのように生かされているのかを実感してもらいたいです。

● 教材

診療参加型臨床実習のため学習ガイド

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

A 医師として求められる基本的な資質・能力（プロフェッショナリズム、医学知識と問題対応能力、診療技能と患者ケア、コミュニケーション能力、チーム医療の実践、医療の質と安全の管理、社会における医療の実践、科学的探究、生涯にわたって共に学ぶ姿勢）
F 診療の基本（症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識、基本的診療技能）
G 臨床実習（診察の基本、臨床推論、基本的臨床手技、診療科臨床実習）

● 該当するコンピテンス

「授業の到達目標」参照

● その他

開講年度 2019 年

科目名	循環器内科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Cardiovascular Medicine						

● 担当教員

コース主任　葭山　稔（教授）	泉家　康宏（准教授）	江原　省一（講師）
岩田　真一（講師） ユニットディレクター	紙森　公雄（助教）	山崎　貴紀（助教）
伊藤　朝広（病院講師）	水谷　一輝（病院講師）	柴田　　敦（病院講師）
能仁　信一（病院講師）	吉山　智貴（病院講師）	松尾　真典（病院講師）

● 科目の主題

循環器系の構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

● 授業の到達目標

病棟において実際の患者診療を体験することにより、これまでに講義や書物によって取得した知識が、どのようにして患者診療に活用できるかを学習すること、および必要単位の取得により、1 構造と機能、2 疾患、3 基本的診療手技（詳細は学習ガイド参照）の取得を目標とする。

● 授業内容・授業計画

項目	単位内容	担当	必要単位
A	身体所見のとりかた（２回開催）	岩田	1
B	Imaging 講義（２回開催）	水谷	1
C	アブレーション講義（２回開催）	吉山	1
D	内科教授外来（２回開催）	葭山	1
E	循環器回診（２回開催）	葭山	2
F	心不全講義（２回開催）	泉家	1
G	心カテ講義（２回開催）	紙森	1
H	心電図講義（２回開催）	江原	1
I	CV 挿入実習（２回開催）	江原	1
J	心エコー講義（２回開催）	能仁	1
K	心カテ参加（10 回開催）	紙森・山崎・水谷	2
L	アブレーション参加（４回開催）	吉山・松尾	2
M	心リハ参加（２回開催）	柴田(敦)	1
N	心エコー参加（３回開催）	岩田・能仁	1
O	外科教授　手術講義（1 回開催）	柴田（利）	1
P	外科早朝カンファレンス（4 回開催）	柴田（利）	4

項目	単位内容	担当	必要単位
Q	手術参加	柴田（利）	
R	外科回診（3 回開催）	柴田（利）	3
S	内科教授まとめ（１回開催）	葭山	1
T	外科教授まとめ（１回開催）	柴田（利）	1
U	合同カンファレンス（3 回開催）	葭山・柴田（利）	3

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

実習までに、学習ガイドに明記されている「学習目標」「自己点検評価書」を確認し、実習に望むこと。実習内容を理解し、身につけるためには、各実習の前後にそれぞれ２時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

● 評価方法

進級は、必要単位の取得（最低 30 単位）・レポート・口頭試問により決定する。
成績は、取得単位数によって決定する。よって「自主的」に「興味のある」検査・手術に「複数回」参加し、多くの単位取得に努めること。

● 受講生へのコメント

以下の基本姿勢を順守すること。(学習ガイド参照)
(1)医療の基本は生命に対する畏敬と人類愛である。
(2)患者の人格を尊重し、その信頼を得るように努力しなければならない。
(3)自ら問題意識をもち、その診療には自らの全能力を駆使して当たらなければならない。
(4)医師としての品位を欠くようなことがあってはならない。
(5)医療に携わるすべての人々の立場と役割を理解しなければならない。

● 教材

M4 講義で各担当教員より配布された講義資料

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

必要単位の取得により、コアカリキュラム A(医師として求められる基本的な資質・能力)、D(人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療：循環器系)、F(診療の基本)、G（臨床実習）に沿った知識・技能の取得が可能となる。(各対応表は学習ガイド参照)

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（Ａ－１）

開講年度 2019 年

科目名	心臓血管外科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Cardiovascular Surgery						

● 担当教員

コース主任　柴田利彦(教授)	藤井弘通（講師）	高橋洋介（講師）
森崎晃正（病院講師）		
三島晃（名古屋市立大学　心臓血管外科教授）非常勤講師		

● 科目の主題

心臓血管外科では、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心臓弁膜症、大動脈瘤や大動脈解離などの大動脈疾患、先天性心疾患、閉塞性動脈硬化症や下肢静脈瘤などの末梢血管疾患等に関して、主に外科治療領域を扱う科目である。実習においては、担当医の指導の下、外科チーム医療を体験し、臨床における知識、態度、技能などを習得することを目的とする。

● 授業の到達目標

・診断や治療方針の決定、術前準備、手術、術後経過など一連の過程につき症例を通じて学習することにより、心臓血管外科学に対する理解を深める。
・医療従事者や学生同士で相互討論することで、共通の理解となるように努める。
・心臓血管外科以外の医師や、医師以外の医療スタッフとのコミュニケーションの大切さを学ぶ。
・あらかじめ習得した知識を真に身につける。
・医療専門職として適切な態度を身につけ、与えられた問題を的確に解決する能力を向上させる。
・人間として患者に接し、患者に対する全人的治療とはどうあるべきかを体験できる機会を与える。

● 授業内容・授業計画

（日程詳細は学習ガイド参照）

実習の概要については以下に記す。

心臓血管外科を選択した学生について

・指定された担当患者について、担当医とともに診療に参加する。
・担当患者の病態や手術適応について学習し、術前の症例検討会でプレゼンテーションを行う。
・担当医とともに、担当患者の手術に参加し、手術室での役割について体験し、理解を深める。
・担当患者について、術後管理、合併症など、術後の経過について、実際に体験する。
・回診に参加し、担当患者以外の疾患・病状についても理解する。
・最終的に、受け持ち症例の病態、診断、治療についての要約を作成し、問題点を見いだし、これを考察し、レポートにまとめる。

循環器内科を選択した学生について

・指定されたカンファレンスに必ず参加し、術前検査の考え方を理解し、その結果より手術方法を導く考え方を会得する。
・指定された患者回診に参加し，術前，術後の疾患・病状についても理解する。

● 事前・事後学習の内容

弁膜症、虚血性心疾患など循環器学における基本的な疾患名やその病態は、事前に学習していることが望ましい。事前学習は、カンファレンスや講義において要点や問題点の円滑な理解に役立ち、より効果的な実習になり得ると考えている。循環器分野の基本的医学用語および事項は、学習しているものとし、担当医と実習を進めるとする。

実習で体験したことは、事後に教科書等で復習し、経験した症例・疾患のみでなく、関連分野についても学習することが望ましい。

● 評価方法

・実習への出席・態度（服装、言動、姿勢、意欲など）
・カンファレンス、講義、回診への出席および参加態度
・手術室においての行動および手術見学における態度
・受け持ち症例についての質疑応答

● 受講生へのコメント

1. 医療の基本は生命の尊厳に対する畏敬と人類愛である。
2. 患者の人格を尊重し、信頼を得るように努力しなければならない。
3. 医療に携わる人々の立場と役割を理解する。
4. 医学生として品位と自覚を持つ。
5. 医学学習であっても全能力をもってあたらねばならない。

● 教材

特に決まった教材はないが、参考に以下の書籍を示す。

循環器学　メデカルビュー社
標準外科学　医学書院
心臓外科　医学書院

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

循環器臨床実習に該当

G-1　診療の基本
G-2　臨床推論
G-3　基本的臨床手技
G-4　診療科臨床実習

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● **その他**

１．ユニット名（Ａ－１）

開講年度 2019 年

科目名	法医学 CC	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Legal Medicine (CC)						

● 担当教員

石川　隆紀（法医学）他

● 科目の主題

法医学は単なる基礎医学ではなく、応用医学として社会と密接なかかわりをもった医学分野です。近年医療事故・医事紛争など医療にかかわる社会問題の増加傾向もみられ、臨床医として、法医学的視点を持ち、問題意識をもって医療を行なっていくことは重要であると考えられます。

実習を通じて医療文書の作成、医療関連死事案の検討、中毒検査の実際などについて学びます。

● 授業の到達目標

Ⅰ　プロフェッショナリズム
責任感のある行動（時間管理、身だしなみ、言葉遣い等）がとることができる
積極的な発言・態度がとることができる
Ⅱ　コミュニケーション力
教員・同級生・他職種（職員等）と良好なコミュニケーションがとることができる
Ⅲ　医学及び関連領域の知識
疾患の病態生理と診断法を説明できる
損傷の成傷機転を説明できる
Ⅳ　基本的総合診療能力
外表所見の診察ができる
Ⅴ　科学的探究心
疑問を持つ姿勢
自己学習によって問題を解決するための能力を身につける
Ⅵ　教育マインド
グループ内の情報共有
Ⅶ　グローバルシンキング
医学用語を英語で理解し、表現できる英語力を身につける
Ⅷ　大阪住民の幸福と発展への貢献力
社会、地域からの医療に対するニーズを理解できる

● 授業内容・授業計画

学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

個別の事前学習・事後学習については実習にて指示する

● 評価方法

・法医学 CC は実習終了時(木曜日)に試験を行い、独自に進級判定を行う
・病欠などの正当な理由なく CC 日程の 3 分の 2 欠席した学生は、試験の受験資格を認めない
・実習中の態度も評価に含めます。積極的な態度が求められる
・遅刻は厳禁です。正当な理由なく遅刻した場合は、実習日 1 日を欠席とする

● 受講生へのコメント

最終医療における法医学的知識を有する医師の育成を目標とする

● 教材

推奨:

1) 現代の法医学　永野耐造・若杉長英　編　(金原出版)
2) エッセンシャル法医学　高取健彦　編　(医歯薬出版)
3) 死体検案ハンドブック　的場梁次・近藤稔和　編　(金芳堂)
4) 臨床と血液型　澤口彰子・溝口秀昭・清水勝　編　(朝倉書店)
5) 死亡診断書・出生証明書・死産証書記入マニュアル　(厚生統計協会)
6) NEW 法医学・医事法　勝又義直・鈴木修　編　(厚生統計協会)

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

主なものを示す。

A　医師として求められる基本的な資質・能力
　A-6　医療の質と安全の管理
B　社会と医学・医療
　B-2　法医学と関連法規
C　医学一般
　C-3-3)　生体と薬物
E　全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療
　E-9　人の死
F　診療の基本
　F-2　基本的診療知識

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム　(智、仁、勇)
Ⅱ コミュニケーション力　(智、仁、勇)
Ⅲ 医学および関連領域の知識　(智)
Ⅳ 基本的総合診療能力　(智、仁、勇)
Ⅴ 科学的探究心　(智)
Ⅵ 教育マインド　(仁)
Ⅶ グローバルシンキング　(智、仁)
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力　(智、仁、勇)

● その他

特記事項なし

開講年度 2019 年

科目名	呼吸器内科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Respiratory Medicine						

● 担当教員

教授	川口知哉	
准教授	金澤　博	浅井一久
講　師	渡辺徹也	宇治正人（運動生体医学）
	木村達郎（先端予防医療学）	栩野吉弘（総合医学教育学）
	光岡茂樹（臨床腫瘍学）	
病院講師	井尻尚樹	佐藤佳奈子
	鈴村倫弘（臨床腫瘍学）	中井俊之
	山田一宏	山本典雄
	吉井直子（臨床感染制御学）	澤　兼士

● 科目の主題

病棟において実際の呼吸器疾患患者診療を体験することにより、これまでに講義や書物によって習得した知識が、どのようにして患者診療に活用できるかを学習することが目的である。この際、純粋に科学的手段としての医学的技術を見学あるいは実践すること、および、ひとりの人間として患者に接し、患者に対する全人的医療とはどういうものかを洞察させる機会をあたえることを呼吸器内科学実習の２つの柱とする。

● 授業の到達目標

全人的医療への理解を深め、個々の患者の呼吸器疾患に対して、講義や書物で得た知識を確認して、医療面接を中心としたステューデントドクターに認められた医行為を実際に行う。また、病態を把握して、治療計画を立案できる。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

呼吸器内科学の基礎知識の復習をして実習に臨むこと。また、適宜担当となった患者の病態理解に努め、必要な学習を事後に行うこと。

● 評価方法

医療面接、ステューデントドクターに認められた医行為の技能評価、態度等を総合的に評価する。出席率も真摯に実習に臨む態度の一部として勘案する。

● 受講生へのコメント

指導医の指示を守ること。

● **教材**

● **対象学年**

5 年生

● **コアカリキュラムへの対応**

医学教育モデル・コア・カリキュラム　G　臨床実習へ対応

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（A－2）

開講年度 2019 年

科目名	呼吸器外科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	General Thoracic Surgery						

● 担当教員

コース主任　西山　典利（病院教授）	泉　信博（講師）
月岡　卓馬（講師）	小松　弘明（病院講師）

● 科目の主題

肺・縦隔・気道系の腫瘍性病変および炎症性疾患に対する手術治療

● 授業の到達目標

手術適応を理解できる．手術に必要な解剖学的知識・生理学的知識を理解できる．担当症例についてのプレゼンテーションができる．

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

胸部の解剖と呼吸生理を事前に学習し実習に望むこと．プレゼンテーションの準備をすること．実習後は担当症例について検討・考察し手術適応，術前術後管理，合併症について学習すること．

● 評価方法

自己評価および教員による評価を行う．

● 受講生へのコメント

臨床現場での実習になるため身だしなみや言動には十分注意すること．

● 教材

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

F-2-9),
G-3-1),
G-3-3),
G-4-1)-(2)

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）

● **その他**

ユニット名（A-２）

開講年度 2019 年

科目名	感染症内科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Practice of Infectious disease medicine						

● 担当教員

コース主任:山田　康一（講師）	掛屋　弘（教授）	吉井　直子（病院講師）

● 科目の主題

本科目の主題は実際の感染症症例を検討し、プレゼンテーションすることで感染症診療の極意を学ぶことである。

● 授業の到達目標

①患者、家族と適切なコミュニケーションをとることができる
②適切な病歴・バイタルサイン・身体所見をとることができる
③微生物検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果解釈ができる
④症例を詳細かつ分かりやすく説明できる。
⑤コンサルト症例に関しては要点を簡潔に説明できる
⑥症例の鑑別診断、治療方針を立案できる
⑦他職種医療者とコミュニケーションをとり、チーム医療に参加できる
⑧薬剤耐性菌について説明できる
⑨手指衛生が適切に施行できる
⑩標準予防策・各種予防策について説明し、適切に施行できる
⑪針刺し事故のリスク軽減方法や遭遇時の対応を説明できる
⑫各種抗菌薬のスペクトルを説明できる
⑬原因菌確定時の適切な抗菌薬への変更法を説明できる
⑭抗菌薬投与終了時期を説明できる

● 授業内容・授業計画

①感染症症例検討
各科からコンサルトされる感染症症例の診断や治療を検討する。コンサルト症例を提示したのちに、病歴、身体診察を行う。検査所見や画像所見から鑑別診断を行い、治療計画を立案する。

②感染症内科教授回診
午前中に診察した症例に関して Power point を使ってプレゼンテーションをし、鑑別診断と治療計画を提示する。従って当日は 1 台パソコンを持参することが望ましい。また、当科入院患者さんの回診も合わせて行う。

③環境ラウンド
当院の感染制御チーム（Infection control team）が、病棟の環境をラウンドするため参加を必要とする。院内環境整備の重要性や手指衛生を中心とした院内感染対策の重要性をここで学ぶ。

④まとめ/レクチャー

症例総括を行い、感染症診療の基本的な考え方を学ぶ。その後、感染症診療のレクチャーを行う。

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

・事前学習として推奨書籍である「感染症レジデントマニュアル」を一読しておくことが望ましい。

・事後学習としてまとめで配布するスライドで感染症診療の考え方を復習すること。

● 評価方法

・最後に実習の理解度を確認するために小テストを行う。

● 受講生へのコメント

・Power point の使い方と症例プレゼンテーションの方法を練習しておくこと。

● 教材

適宜教材として、プリントを配布する

推奨参考図書として

・「感染症レジデントマニュアル」藤本　卓司

・「レジデントのための感染症診療マニュアル」青木　眞

にて理解を深めることが望ましい

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

主にコアカリキュラムの「E　全身におよぶ生理的変化、病態、診断、治療 E-2 感染症」「G　臨床実習　G-4-1)-(1) 内科」に対応している。

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅴ 科学的探究心 （智）

Ⅵ 教育マインド （仁）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（A-２）

開講年度 2019 年

科目名	総合診療センター （総合医学教育学）	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Medical Education and General Practice						

● 担当教員

コース主任　首藤　太一（教授）	竹本　恭彦（准教授）	栩野　吉弘（講師）
鎌田　紀子（講師）	豊田　宏光（講師）	並川　浩己（講師）
幕内　安弥子（研究医）	河南　裕介（研究医）	奥山　直木（研究医）
北本　和裕（研究医）	福本　一夫（大学院生）	

● 科目の主題

1.　プロフェッショナリズム
2.　コミュニケーション力
3.　医学および関連領域の知識
4.　基本的総合診療能力
5.　科学的探究心
6.　教育マインド
7.　グローバルシンキング
8.　大阪住民の幸福と発展への貢献力

の８つの実践的能力を身につける。

● 授業の到達目標

《一般目標》

1.　プロフェッショナリズム
2.　コミュニケーション力
3.　医学および関連領域の知識
4.　基本的総合診療能力
5.　科学的探究心
6.　教育マインド
7.　グローバルシンキング
8.　大阪住民の幸福と発展への貢献力

《到達目標》

1.　プロフェッショナリズム
　適切な医療面接を行うことができる
　適切な患者と医師の関係を築くことができる
2.　コミュニケーション力
　患者、他職種医療職者、他医師と適切なコミュニケーションをとることができる
　適切な診療記録とプレゼンテーションができる
3.　医学および関連領域の知識
　医学および関連領域の知識に基づき、問題志向型システムを活用し、臨床診断推論ができる
　症候・病態からアプローチし、臨床診断推論ができる

4. 基本的総合診療能力
   バイタルサインを評価でき、全身状態を診断することができる
   患者中心のチーム医療に参加できる
5. 科学的探究心
   科学的根拠に基づいた医療を実践できる
6. 教育マインド
   Teaching is Learning を理解できる
   同僚の医師に自らの経験と知識を伝え、それにもとづき議論と質疑応答ができ、その議論を通じ、自らも学びをえることができる
7. グローバルシンキング
   基本的な診療を英語で行うことができる
8. 大阪住民の幸福と発展への貢献力
   診療参加型地域医療臨床実習において、大阪府内地域の医療機関で実習するための基礎を身につける

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

4 年生で実施した臨床スターター実習で学んだことを、事前に自己復習する。事後も自己復習をする。

● 評価方法

すべての実習への出席を必須とする。担当者の評価（実習や討論への参加状況など）をもとに進級判定する。

● 受講生へのコメント

総合医学教育学／総合診療センターには、ありとあらゆる症状と訴えを有した患者が来院します。そして、その患者の生活背景、病状が全く分からない状況からすべてが始まります。

このような状況で、患者と対話し、対応を進める能力は将来医師になった時に求められる最も基本的かつ最も重要な獲得しておくべき能力（コミュニケーション能力、基本的総合診療能力）です。当科の実習でこの能力の習得を目指しましょう。

私たちは医療のプロです。プロとして大切なことは、「病気」を診断し、治療さえすればよいのではなく、病気病状を有した「人」を診させていただくのだという心構えを常に忘れないことです。この　プロの心構えも身につけましょう（プロフェッショナリズム）。

● 教材

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

G 臨床実習

● 該当するコンピテンス

「授業の到達目標」参照

● その他

１．ユニット名（Ａ－２）

開講年度 2019 年

科目名	消化器内科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Gastroenterology						

● 担当教員

藤原靖弘（教授）	渡辺俊雄（病院教授）	斯波将次（医療統計学准教授）
谷川徹也（准教授）	山上博一（准教授）	鎌田紀子（総合医学教育学講師）
平良高一（講師）	田中史生（講師）	永見康明（講師）
細見周平（講師）	大谷恒史（先端予防医療学講師）	福永周生（病院講師）
鋳谷成弘（病院講師）	大南雅揮（病院講師）	丸山紘嗣（病院講師）

● 科目の主題

消化器内科では、口から肛門までの消化管全般を対象としている。消化管は食物を体内に取り入れ消化、吸収、排泄を行っており、生活の維持に重要な役割を果たす臓器である。それぞれの臓器に様々な疾患を有しており、腫瘍や炎症などの器質的な疾患から消化管運動障害などの機能性疾患まで多岐に及んでいる。また、上下部消化管内視鏡や小腸内視鏡、胆膵内視鏡などの内視鏡検査・診断、早期がんや食道静脈瘤などの内視鏡治療も日々行っている。消化器内科医になった気持ちで実習を行ってもらいたい。

● 授業の到達目標

病棟の担当医とペアで行動し日々の診察やカルテ記入を行い、医療の最前線に触れることにより基本的総合診療能力やコミュニケーション能力を習得する。当科に特徴的な内視鏡検査や内視鏡治療を数多く見学し、医学および関連領域の知識を吸収する。また国内外での最新の診療を学ぶことによりグローバルシンキングを養い、「智・仁・勇」を兼ねそろえた医療人としてのプロフェッショナリズムを身につける。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

1） 入院患者は、内視鏡治療の患者と、上下部疾患か化学療法を行っている患者を 2 名担当する
2） 入院患者の医療面接・身体所見からプロブレムリストを作成し、初期計画を立てる
3） 担当患者のカルテ記載を SOAP 形式で毎日行う
4） 外来患者の予診を行う
5） 内視鏡治療症例を最低 1 例経験する
6） 回診前カンファレンスにおいて必ず一つ質問する（英語）
7） 回診で受持ち症例をプレゼンテーションする（英語）
8） 発表用スライドを 2 症例、文献的考察を加えて作成する（英語）
9） 学会形式に準じたプレゼンテーションを行う（英語）
10） 上部消化管・下部消化管内視鏡検査の実際を見学する
11） シミュレーターによる内視鏡操作、観察のトレーニングを行う

第 1 週				
月	午前	9:00	イントロダクション； α・β班ともに病院 2F 消化器内科外来集合	谷川
		9:10	α班　外来診療実習；病院２F　消化器内科外来	渡辺・谷川・大谷
		9:10	β班　内視鏡見学；病院 B1F　内視鏡センター	福永
	午後	13:30	オリエンテーション；病院 10F 西病棟 カンファレンスルーム	谷川
		14:00	ケースカンファレンス；病院 10F 西病棟 カンファレンスルーム	藤原
		14:30	教授回診	藤原
火	午前		病棟実習	
		9:00	月曜が祝日の場合；イントロダクション 病院 2F 消化器内科外来	谷川
	午後	13:00	小腸内視鏡検査；病院 B1F　内視鏡センター	大谷
		14:30	腹部診察実習；メディックス 8F SSC	谷川
		14:30	月曜が祝日の場合；オリエンテーション　メディックス 8F SSC	谷川
水	午前		病棟実習	
	午後	13:00	胆膵内視鏡；病院 B1F　内視鏡センター	丸山
木	午前	9:00	上部消化管内視鏡；病院 B1F　内視鏡センター	大南
	午後	13:00	下部消化管内視鏡；病院 B1F　内視鏡センター	鋳谷
		16:00	教授レクチャー；学舎 10F 消化器内科教授室	藤原
金	午前	9:00	上部消化管内視鏡；病院 B1F 内視鏡センター	永見
	午後	14:00	内視鏡検査シミュレーション；メディックス 8F SSC	谷川

第 2 週				
月	午前	9:00	α班　内視鏡見学；病院 B1F　内視鏡センター	福永
		9:00	β班　外来診療実習；病院２F　消化器内科外来	渡辺・谷川・大谷
	午後	14:00	ケースカンファレンス；病院 10F 西病棟 カンファレンスルーム	藤原
		14:30	教授回診	藤原
火	午前		病棟実習	
	午後	13:00	内視鏡的粘膜下層剥離術；病院 B1F 内視鏡センター	福永
水	午前		病棟実習	—
	午後	13:00	内視鏡見学: ESD, ERCP, CS　病院 B1F　内視鏡センター	
木	午前		病棟実習（カンファレンス準備）	
	午後	15:40	教授まとめ, Broken English conference；学舎 10F 消化器内科　教授室	藤原
金	午前	9:00	上部消化管内視鏡；病院 B1F　内視鏡センター	谷川
	午後	14:00	内視鏡検査シミュレーション	細見

実習の留意事項

１）何か不明点があれば、どのような事でもペアの医師か担当教員に気兼ねなく質問して下さい。

２）極力ペアの医師に密着し病棟回診・診察、検査の実習や内視鏡治療の介助を行ってください。実際に研修医と行動を共にすることで、より深く医療の現場に触れて下さい。

３）第 2 週のケースカンファレンス前に担当教員と相談して発表用スライドの check を受けてください。

● 事前・事後学習の内容

1）各回の実習内容に関わる内容について、予習・復習に取り組むこと。

2）担当となった症例については、経過だけでなく、なぜその治療を行っているか、また、その他の治療法など幅広く学習すること。

● 評価方法

自己学習等到達度自己点検評価票、教員評価票、指導体制評価票によって評価する。

● 受講生へのコメント

＜実習上の注意＞

1）基本的に、担当患者の診察は毎日行う。
自身が主治医であればどの様に診療を進めるかを意識し、主体的に考えたうえで、さらにわからないことは、担当教員等とディスカッションをすること。

2）提出するもの
◎出席記録
CC 終了時に医局へ提出。出席の印は、実習毎に、その都度もらうこと。後でまとめてはもらえない。

3）カルテ入力
1：ペア研修医の受け持ち患者全員のカルテを毎日入力する。冊子に手書きで記載すること。
2：記載形式は、POS システムに準ずる。毎日の記載は、SOAP 形式で入力する。同意を得られた患者には、自身でバイタル測定してカルテに記載する。

4）インフォームドコンセント
1：実習時間内に検査・治療の説明が行われる場合は、他の予定がなければ必ず同席する。

5）外来 CC
1：2F 第 3 内科（消化器内科）外来に 9 時集合。

6）検査
1：それぞれの内視鏡検査を見学する。
2：上部消化管内視鏡検査の見学時には、指導医のもと、所見入力も行う。

● 教材

上部・下部消化管内視鏡研修の skill & spirit（朝日新聞社）
内科診断学（医学書院）
内科学（朝倉書店）
新臨床内科学（医学書院）
病気がみえる　消化器（メディックメディア）

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

A　医師として求められる基本的な資質・能力
A-1 プロフェッショナリズム，A-2 医学知識と問題対応能力，A-3 診療技能と患者ケア，A-4 コミュニケーション能力，A-5 チーム医療の実践，A-6 医療の質と安全の管理，A-7 社会における医療の実践，A-8 科学的探究，A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

G　臨床実習

G-1 診療の基本，G-2 臨床推論，G-3 基本的臨床手技，G-4 診療科臨床実習，

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

● その他

１．ユニット名（B）

開講年度 2019 年

科目名	肝胆膵内科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Hepatology						

● 担当教員

コース主任　河田則文(教授)	田守昭博(病院教授)	榎本大(准教授)
打田佐和子(講師)	萩原淳司(講師)	藤井英樹 (講師)
元山宏行(病院講師)	吉田香奈子(病院講師)	羽生大記(生活科学部・教授)
森川浩安(先端予防医学・准教授)		

● 科目の主題

肝・胆道系・膵領域疾患の病因、病態生理、症候、画像を含む検査法、診断、治療、予後などの基本知識を学び、疾患を基礎から臨床まで幅広く理解することを目的とする。

● 授業の到達目標

肝臓：

ウイルス性肝炎、肝硬変、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、門脈圧亢進症（特発性を含む)、先 天性代謝疾患、アルコール性肝障害、薬物性肝障害、脂肪肝、NAFLD/NASH、肝膿瘍、原発性肝癌、転移性肝癌、Budd-Chiari 症候群、肝不全などについて、症状、病因、解剖、生理機能、病理、代謝経路と異常の理由、検査異常について答えることができる。また、症状、血液検査、超音波検査、CT 検査、MRI 検査の診断的意義とその異常所見から、鑑別診断、診断ができ、治療について述べることができる。

胆嚢・胆管：

胆石症、胆嚢炎、胆のう隆起性病変、胆管炎、原発性硬化性胆管炎、胆嚢癌、胆管癌、乳頭部癌、先天性胆道疾患などについて、症状、病因、検査法を理解し、検査結果を評価できるようにする。画像診断としてはCT、超音波検査以外に、ERCP、MRCP があり、その手技と診断的意義について答えることができる。

膵臓：

急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵嚢胞性病変、膵癌、膵内分泌腫瘍などについて診断基準のあるものはこれを熟知し、症状、病因、検査結果を評価し、適切な治療方針を導けるようにする。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

● 評価方法

自己点検表、学習態度を進級判定の材料とします

● 受講生へのコメント

特に大阪は肝疾患患者が非常に多い特殊性のある地域であり、近年、胆膵疾患も増加傾向です。
肝胆膵領域において疾患の基本的な知識、必要な検査（血液検査、腹部超音波検査、CT、MRIなど）や治療に関する知識を積極的に習得し、実習を行ってください。
実習では、担当教員より肝胆膵領域における疾患ごとの講義や超音波下検査および治療法（肝生検、ラジオ波焼灼術、エタノール注入療法など）を見学し、治療適応や手順について実習してもらいます。また、超音波検査機器を実際に用いて、正常ファントムモデルを通して超音波検査を経験してもらいます。
参加型臨床実習ですので質問等は大歓迎です。積極的な姿勢を実習に臨んでください。

● 教材

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

G-4(1)必ず経験すべき診療科

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（B）

開講年度 2019 年

科目名	消化器外科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Gastroenterological Surgery						

● 担当教員

コース主任　大平　雅一(教授)	前田　清（准教授）	八代正和（准教授）
六車一哉（講師）	李　栄柱（講師）	田中浩明（講師）
豊川貴弘（講師）	永原　央（講師）	渋谷雅常（講師）
田村達郎（病院講師）	福岡達成（病院講師）	
形部　憲（病院講師）	吉井真美（病院講師）	

● 科目の主題

消化器の正常構造と機能を理解し，主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を外科の立場から総合的に学び，また，実際の消化器外科治療患者を担当し理解を深めることを目標とする。

・上部消化管外科（食道・胃の悪性疾患）
・下部消化管外科（小腸・大腸の悪性疾患，炎症性腸疾患）

● 授業の到達目標

1）一般目標（GIO：General Instruction Objectives）

一般臨床医になるために必要な一般・消化器外科の基礎的知識を診療あるいは手術を通して習得する。また、医療は患者を人格のある一人の人間としてとらえ、互いの信頼関係を築きながら治療にあたるものであることを体得する。

2）行動目標（SBO：Specific Behavioral Objectives）

1）患者を受持ち、手術適応・検査・選択すべき術式、術前・術後の管理など、消化器外科領域に必要な基礎的知識を習得する。
2）自ら問題意識をもち、治療を行う一員のつもりで積極的に治療に参加する。
3）指導医ならびに受持ち患者の主治医の指導のもとに行動する。
4）手術をうける不安感をもつ患者に温かく接し、信頼関係を築く。
5）BSL 終了時には患者の病態・検査成績・治療方針・手術術式・合併症などを把握し、プレゼンテーションできるようにする。

● 授業内容・授業計画

患者担当医とペアを組み病棟、各種検査室、手術室などで教員の指導を受ける。受持ち患者の検査、理学所見、手術所見を理解し、術前術後の病態を把握し、BSL終了時には十分説明出来るようにする。実習2週目には手術前プレゼンテーションを担当医の指導のもと英語で行う。

日程詳細は学習ガイドを参照。

● 事前・事後学習の内容

実習の前には，初日に配布する冊子を参考に上部・下部消化管領域の悪性疾患の診断と治療法，術式と起こり得る術後合併症について一通り予習しておくこと。また，実習内容を理解し身につけるために，患者

担当医との議論の内容については当日にうちに復習することが望ましい。不明な点があれば，翌日に患者担当医または教員に確認すること。

● **評価方法**

専門職としての道徳性・倫理性，コミュニケーション力，消化器系における医学および関連領域の知識，基本的総合診療能力，科学的探究能力を中心に，よくできた（5 点），できた（3 点），不十分（1 点），できなかった（0 点）の 4 段階で評価する。また，レポート、出席率、実習態度でも成績を評価する。

● **受講生へのコメント**

・患者、家族および医療スタッフと信頼関係を築くことのできるコミュニケーション力を身につけるために，基本事項として，医師に準じた服装で実習に参加し、言葉使い、時間厳守に注意してください。また，患者のプライバシーは厳守してください。

・実習期間中は当該科の方針および担当教員の指示に従うものとしますが，担当症例の診療科実習期間が終了しても同じユニット B 内であれば，担当教員の了解の下で引き続き担当症例の診察、検査、手術等の治療に参加できます。また，担当症例に関わらず、消化器内視鏡検査・治療、腹部エコー下処置、IVR 治療の見学も可能ですので，担当教員に相談してください。

● **教材**

実習初日に、当科で作成した領域別冊子を配布します。

● **対象学年**

5 年生

● **コアカリキュラムへの対応**

G 臨床実習

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● **その他**

ユニット名（B）

開講年度 2019 年

科目名	肝胆膵外科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery						

● 担当教員

コース主任　大平雅一(教授) 柴田利彦(教授)	久保正二（准教授）	竹村茂一（講師）
天野良亮(講師)	田中肖吾（講師）	木村健二郎(講師)
山添定明(講師)	大平　豪(病院講師)	新川寛二（病院講師）

● 科目の主題

肝胆膵系の正常構造と機能を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を外科の立場から総合的に学び、また、実際の肝胆膵外科治療患者を担当し理解を深めることを目標とする。

● 授業の到達目標

1) 一般目標（GIO：General Instruction Objectives）
一般臨床医になるために必要な肝胆膵領域の基礎的知識を診療あるいは手術を通して習得する。また、医療は患者を人格のある一人の人間としてとらえ、互いの信頼関係を築きながら治療にあたるものであることを体得する。

2) 行動目標（SBO：Specific Behavioral Objectives）
1) 患者を受持ち、手術適応・検査・選択すべき術式、術前・術後の管理など、肝胆膵外科領域に必要な基礎的知識を習得する。
2) 自ら問題意識をもち、治療を行う一員のつもりで積極的に治療に参加する。
3) 指導医ならびに受持ち患者の主治医の指導のもとに行動する。
4) 手術をうける不安感をもつ患者に温かく接し、信頼関係を築く。
5) BSL終了時には患者の病態・検査成績・治療方針・手術術式・合併症などを把握し、プレゼンテーションできるようにする。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

指導医の指導のもと、実際の診療（診断、術前説明、治療、術後管理）に参加する。受持ち患者の検査、理学所見、手術所見を理解し、術前術後の病態を把握し、CC終了時には十分説明出来るようにする。

● 事前・事後学習の内容

実習の前には肝臓・胆道・膵臓領域の悪性疾患の診断と治療法、術式と起こり得る術後合併症について一通り予習しておくこと。また，実習内容を理解し、身につけるために、主治医との議論の内容については当日にうちに復習することが望ましい。不明な点があれば、翌日に主治医または指導医に確認すること。

● 評価方法

専門職としての道徳性・倫理性、コミュニケーション力、消化器・肝胆膵系における医学および関連領域の知識、基本的総合診療能力、科学的探究能力を中心に、よくできた（5 点）、できた（3 点）、不十分（1 点）、

できなかった（0 点）の 4 段階で評価する。

● 受講生へのコメント

・患者・家族および医療スタッフと信頼関係を築くことのできるコミュニケーション能力を身につけるために、基本的事項として、医師に準じた服装で実習に参加し、言葉使い、時間厳守に注意すること。また、患者のプライバシーは厳守すること。

・実習期間中は当該科の方針および担当教員の指示に従うものとしますが、担当症例の診療科実習期間が終了しても同じユニット B 内であれば、担当教員の了解の下で引き続き担当症例の診察、検査、手術等の治療に参加してください。また、担当症例に関わらず、消化器内視鏡検査・治療、腹部エコー下処置、IVR 治療の見学も可能ですので、担当教員に相談してください。

● 教材

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

G: 臨床実習

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

● その他

ユニット名（B）

開講年度 2019 年

科目名	放射線科･放射線治療科、核医学	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Diagnostic and Interventional Radiology /Radiation Oncology, Nuclear Medicine						

● 担当教員

（放射線診断学・IVR 学）

コース主任　三木幸雄(教授)	山本晃(講師)	寒川悦次(病院講師)
下野太郎(准教授)	大隈智尚(講師)	影山健(病院講師)
小山孝一(准教授)	濵本晋一(講師)	植木愛(病院講師)
	城後篤志(講師)	

（放射線腫瘍学）

澁谷景子(教授)	堤真一(講師)	天野公輔(病院講師)
細野雅子(准教授)	造酒慶喬(講師)	

（核医学）

河邉譲治（准教授）	東山滋明(講師)	吉田敦史(病院講師)

● 科目の主題

放射線診断学（画像診断学）、Interventional Radiology（IVR)、放射線腫瘍学、核医学の全般にわたり実習する。画像診断全般について、現代の医療における位置づけを考え、IVR と放射線を用いた悪性腫瘍の治療、放射線腫瘍学についても講義・実習を行う。

● 授業の到達目標

・一般臨床医として必要な各種画像診断、画像診断技術を応用した各種治療（IVR）、放射線治療による悪性腫瘍の治療の原理と適応並びに基礎的知識、副作用や障害を説明できる。
・患者・医師間および他の医療スタッフとの人間関係の構築について修練する。
・放射線の安全取扱、各種画像診断における放射線被曝量並びに放射線障害防止を説明できる。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

実習までに下記の教材にひと通り目を通しておくこと。内容を理解し、身に着けるためには各実習の前後にそれぞれ 2 時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

● 評価方法

各担当教員からフィードバックを受ける。フィードバックにあたっては大阪市立大学のコンピテンス、教員評価票に基づき評価を行う。

● 受講生へのコメント

実習が実り多いものとするための様々なプランを用意し、目標が達成されるように教員がサポートします。

● 教材

① これで納得レジデントのための CT 診断−Q&A でわかる：荒木力著 南江堂 2004/3

② 画像解剖コンパクトナビ医学生・研修医必須(コンパクトシリーズ):百島祐貴著 医学教育出版社　2013/5

③ 画像診断コンパクトナビ医学生・研修医必須(コンパクトシリーズ):百島祐貴著 医学教育出版社　2016/3

④ レジデントのための腹部画像教室：山﨑 道夫編著 日本医事新報社 2017/9/7

⑤ 救急で役立つ頭部の CT・MRI：細谷貴亮著 南江堂 2006/3

⑥ 放射線医学　脳画像診断：三木幸雄編 金芳堂 2012/10

⑦ 標準放射線医学第７版:西谷弘／遠藤啓吾／松井修／伊東久夫編　医学書院　2011/1

⑧ 画像診断を考える第２版：よりよい診断のために　西村一雅／下野太郎／南学　学研メディカル秀潤社 2014/4/

⑨ フェルソン 読める!胸部 X 線写真 改訂第 3 版/原著第 4 版 楽しく覚える基礎と実践　大西裕満訳　診断と治療社 2016/11

⑩ 核医学ノート第 5 版　久保敦司／木下文雄著　金原出版 2009/3

⑪ わかりやすい核医学　玉木長良／真鍋治著　文光堂 2016/1

⑫ がん放射線治療　パーフェクトブック　唐澤久美子／藤本美生編　学研　2016/9

⑬ 放射線医学　放射線腫瘍学　猪俣泰典著　金芳堂　2012/4

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

・主にコアカリキュラムの F-2-5 放射線等を用いる診断と治療と E-6 の放射線の生体影響と放射線傷害に対応している。

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

● その他

ユニット名（B）

開講年度 2019 年

科目名	病理診断科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Diagnostic Pathology						

● 担当教員

コース主任　大澤　政彦(教授)	桑江優子（助教）	田中さやか（病院講師）

● 科目の主題

病理診断学とは、形態学的な変異や正常との共通点をもとに疾患を診断する診断学の一分野である。また、実務として病理診断科において病理診断をすることを日常の業務としている。本プログラムでは病理診断科において日常行なっている業務を経験し、実際に自ら診断を行うことで、病理診断学についての知識、方法論を身につける。また、病院における病理診断科の役割と重要性を理解する。

● 授業の到達目標

１．病理診断の意義・適応を理解し、臨床からの要望が理解できる。
２．生検や手術標本の診断で高頻度疾患の組織形態の特徴と鑑別診断を挙げることができる。
３．鑑別に必要な特殊診断検査（特殊染色・免疫組織染色・電子顕微鏡検査など）を挙げることができる。
４．術中迅速診断と細胞診断・組織診断との違いと迅速診断の限界について理解できる。
５．病理解剖の意義を理解し、臨床的な問題点を把握し、病気の全体像を説明できる。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

9:00　　集合（病院 3 階病理診断科）　病理診断科ガイダンス、注意事項の説明
9:20-11:00　手術標本の肉眼所見観察、迅速診断、病理診断の実習と質疑応答
11:00-12:00　組織診断
13:00-15:00　組織診断
15:00-16:00　質疑応答
16:00-17:00　Clinicopathological conference（学舎 12 階カンファレンス室）
病理解剖のある場合は、解剖の見学を行う。

● 事前・事後学習の内容

3 年時の病理学の範囲を通読しておくことが望ましい。

● 評価方法

出席と、質疑応答などの内容によって評価する。

● 受講生へのコメント

実習時間以外の質問等は随時受け付けます。病理診断科に連絡し、来てください。

● **教材**

病理診断科内にある書籍、必要に応じ、文献検索によりえられる情報も教材とします。

● **対象学年**

5 年生

● **コアカリキュラムへの対応**

C-4

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

● **その他**

ユニット名（B）

開講年度 2019 年

科目名	医療安全学	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Patient　Safety						

● 担当教員

コース主任:仲谷達也（教授）	山口悦子（准教授）

※担当：医療安全管理部　中村和徳（保健主幹）、藤長久美子（保健副主幹）

● 科目の主題

医療の質と安全を高めるための

- コミュニケーション
- チーム医療の実践

● 授業の到達目標

- 病院組織の医療の質・安全管理の実際を理解する
- 質と安全の向上にコミュニケーションとチームワークが最も重要であることを理解する
- 医師の役割として、多職種チーム内でのチームメンバーのコミュニケーションとチームワークを促進・支援することの重要性を理解する。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

M3,M4 で履修した医療安全学の講義資料を復習しておくこと

● 評価方法

出席は必須。担当者の評価（授業への参加状況など）をもとに進級判定する。

● 受講生へのコメント

医療の質は、安全性・有効性・患者中心志向・適時性・効率性・公正性で評価されますが、このうち安全性は医療の質の“コア・バリュー”といわれ、最も重要であり前提とされる要素です。現在、世界では、医師は多職種で構成される医療チームのリーダーとして、リーダーシップを発揮することを求められています。しかし、ここでいうリーダーシップとは、診断と治療の場面においてのみ指示を出し、他の職種がそれに従うという医師像とは、全く違います。今、世界で評価される医師は、技術や知識の研鑽はもちろんのこと、チームメンバーに患者中心の医療という方針を明確に示し、チームメンバーのコミュニケーションを促進し、チームワークを支援し、常に広い視野・長期的な視点でチームをモニタリングできる医師です。みなさんも国際的に通用する医師を目指し、わずかな時間ではありますが患者安全の実際を学び、医師としての役割について一緒に考えてみましょう。

● 教材

● **対象学年**

5 年生

● **コアカリキュラムへの対応**

A-6（一部 A-4, 5）

● **該当するコンピテンス**

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

● **その他**

ユニット名（B）

開講年度 2019 年

科目名	代謝内分泌・腎臓内科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Metabolism, Endocrinology, and Nephrology						

● 担当教員

教員名	所属	担当分野名
稲葉雅章（教授）：コース主任	代謝内分泌病態内科学	内分泌学・代謝学・リウマチ学
石村栄治（特任教授）	腎臓病態内科学	腎臓病学・透析医学
絵本正憲（准教授）	代謝内分泌病態内科学	糖尿病学・代謝学
庄司哲雄（研究教授）	血管病態制御学	代謝学・透析医学
福本真也（准教授）	先端予防医療学	動脈硬化学・予防医療学
今西康雄（准教授）	代謝内分泌病態内科学	骨代謝学・内分泌学
塩井　淳（講師）	血管病態制御学	動脈硬化学・糖尿病学・内分泌学
森　克仁（講師）	腎臓病態内科学	腎臓病学・糖尿病学
森岡与明（講師）	代謝内分泌病態内科学	糖尿病学・代謝学
山田真介（講師）	代謝内分泌病態内科学	リウマチ学
藏城雅文（講師）	代謝内分泌病態内科学	内分泌学
津田昌宏（講師）	代謝内分泌病態内科学	腎臓病学
仲谷慎也（講師）	代謝内分泌病態内科学	腎臓病学
越智章展（講師）	代謝内分泌病態内科学	糖尿病学・腎臓病学
永田友貴（病院講師）	代謝内分泌病態内科学	内分泌学，骨代謝学
山崎祐子（病院講師）	代謝内分泌病態内科学	糖尿病学・代謝学
長崎俊樹（非常勤講師）	代謝内分泌病態内科学	内分泌学
辻本吉広（非常勤講師）	腎臓病態内科学	透析医学
元山宏華（非常勤講師）	代謝内分泌病態内科学	糖尿病学・動脈硬化学

● 科目の主題

1．臨床医学，特に内科学を総合的に理解し，診断，病態，治療を考える基礎的知識を習得する．

2．内科診療の基本的技能の習得，個々の患者の問題点の把握，評価，治療するために問題指向型解決能力を習得し，診療録の適切な記載法を学ぶ．

3．医師としての倫理観・使命を学び適切な行動をとれるように，また患者・医療スタッフと良好な人間関係を形成しチーム医療を実践する能力を体得する．

4．下記の内科疾患について，診断，検査，治療と患者のケアまでトータルに理解し，診療の実際について理解を深める．糖尿病とその合併症，脂質異常症，動脈硬化性疾患，核酸代謝異常，内分泌疾患，骨代謝疾患，腎臓疾患，電解質異常

● 授業の到達目標（学習ガイド内「コンピテンシー」参照）

Ⅰ．プロフェッショナリズム

責任感のある行動（時間管理、身だしなみ、言葉づかい等）

病棟での積極的な行動（インフォームドコンセント、検査説明等）

カンファレンスでの積極的な行動（質問、質疑応答等）

Ⅱ．コミュニケーション力

外来症例，入院症例（目標２例）

検査症例（目標３例）：腎生検，超音波検査など

Ⅲ．医学および関連領域の知識

糖尿病・脂質異常症の病態生理と診断・治療

腎臓疾患・電解質異常の病態生理と診断・治療

内分泌疾患・骨代謝疾患の病態生理と診断・治療

動脈硬化性疾患の病態生理と診断・治療

Ⅳ．基本的総合診療能力

内科の基本的診察・検査手技

複数の疾患を抱える患者に対する診療計画の作成

Ⅴ．科学的探求心

科学的根拠に基づいた検査・治療の選択

経験した症例に関連する問題についての文献的検索

Ⅵ．教育マインド

グループ内の情報共有（担当患者の共有）

屋根瓦式教育（後輩を指導する機会）

Ⅶ．グローバルシンキング

内科診療に必要な医学用語を英語で理解し、表現できる英語力.

必要な情報を英語 web 上で検索ができる.

Ⅷ．大阪住民の幸福と発展への貢献力

社会、地域からの医療に対するニーズを理解できる.

都市型医療が抱える問題点に対する考察する.

● 授業内容・授業計画

下表を参照.

● 事前・事後学習の内容

１．事前学習：一般的な内科学教科書の内分泌・代謝学，腎臓病学の章を通読し，当診療科でおもに扱う分野の概要を理解しておく.

２．事後学習：担当した症例の疾患・病態について Pubmed や Medline，医中誌，専門誌等を用いた文献的検索を行い，症例についての理解をより深める.

● 評価方法（学習ガイド参照）

１．実習終了後は自己点検表を記入し担当教員の署名をもらう.

２．最終日には主担当教員からフィードバックを受ける．フィードバックにあたっては，大阪市立大学のコンピテンス，教員評価表を中心に行う.

それまでに，必ず次の 3 点が提示できるように必要事項の記載を終了させておく.

① 外来症例リスト
② 病棟・手術症例リスト
③ 学習目標到達度自己点検評価表

3．実習終了後に下記の 6 点を学務課に提出する．これらすべてをもって進級判定の材料とする．
① 外来診療症例リスト
② 病棟・手術症例リスト
③ 学習目標到達度自己点検評価表
④ 教員評価表
⑤ 患者アンケート
⑥ 指導体制評価表のコピー

● 受講生へのコメント

一般的な内科学教科書の内分泌代謝学，腎臓病学の章を通読し，当診療科でおもに扱う疾患分野の概要を理解しておく．

● 教材

例：内科学（朝倉書店），ハリソン内科学（メディカルサイエンスインターナショナル），内科学書（中山書店），新臨床内科学（医学書院），内科学（分光堂）

● 対象学年

5 年生

●コアカリキュラムへの対応

D　人体各器官の正常構造と機能，病態，診断，治療
8．腎尿路系（体液・電解質バランスを含む）１２．内分泌・栄養・代謝系
E　全身におよぶ生理的変化，病態，診断，治療
8．加齢と老化
F　診療の基本
1．症候・病態からのアプローチ：全身倦怠感，体重減少・体重増加，脱水，貧血，浮腫，尿量・排尿の異常，血尿・タンパク尿
2．基本的診療知識：臨床推論，根拠に基づいた医療，臨床検査，病理診断，超音波を用いる診断と治療，薬物治療の基本原理，食事・栄養療法と輸液療法
3．基本的診療技能：問題志向型システムと臨床診断推論，医療面接，診療録（カルテ），臨床判断，身体診察，基本的臨床手技
G　臨床実習
1．診療の基本　2．臨床推論　3．基本的臨床手技　4．診療科臨床実習（内科）

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）

Ⅵ 教育マインド （仁）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

●その他

ユニット名（C）

（表）

2019年度 M5ユニット型CC 代謝内分泌・腎臓内科（第二内科） 概要

1週目	月	火	水	木	金
AM	オリエンテーション	病棟実習	（乳腺内分泌外科）	病棟実習 糖尿病ML（庄司）	教授外来初診 病棟実習
PM	腎ML（仲谷） 糖尿病ML（森岡・越智）	教授・准教授回診 （稲葉・絵本）	（乳腺内分泌外科）	エコー: （甲状腺）長崎，山田，永田， （腎）津田，仲谷，（糖）山崎	内分泌ML（今西・蔵城）
	（乳腺内分泌外科）	病棟実習 2内担当教員	病棟実習	病棟実習 2内担当教員	病棟実習 2内担当教員

（注）乳腺・内分泌外科のスケジュールは別途参照.

2週目	月	火	水	木	金
AM	病棟実習	病棟実習	（乳腺内分泌外科） 糖尿病ML（山崎・角谷）	病棟実習 内分泌ML（山田・永田）	教授外来初診 病棟実習
PM	糖尿病ML（森岡・越智）	教授・准教授回診 （稲葉・絵本）	（乳腺内分泌外科） 腎ML（森・津田）	エコー: （甲状腺）長崎，山田，永田， （腎）津田，仲谷，（糖）山崎	病棟実習
	（乳腺内分泌外科）	病棟実習 2内担当教員	糖尿病カンファレンス	病棟実習 2内担当教員	2内担当教員（総括）

* ML: ミニレクチャー

開講年度 2019 年

科目名	乳腺・内分泌外科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Breast and Endocrine Surgery						

● 担当教員

コース主任　大平雅一(教授)	小野田尚佳(准教授)	高島　勉(講師)
野田　諭(講師)	柏木伸一郎(講師)	森崎珠実(病院講師)

● 科目の主題

乳腺外科（乳腺の悪性疾患）
内分泌外科（甲状腺の悪性疾患，内分泌疾患）

● 授業の到達目標

1）一般目標（GIO：General Instruction Objectives）
一般臨床医になるために必要な一般，乳腺・内分泌外科の基礎的知識を診療あるいは手術を通して習得する．また，医療は患者を人格のある一人の人間としてとらえ，互いの信頼関係を築きながら治療にあたるものであることを体得する．

2）行動目標（SBO：Specific Behavioral Objectives）
1）患者を受持ち，手術適応・検査・選択すべき術式，術前・術後の管理など，乳腺・内分泌外科領域に必要な基礎的知識を習得する．
2）自ら問題意識をもち，治療を行う一員のつもりで積極的に治療に参加する．
3）指導医ならびに受持ち患者の主治医の指導のもとに行動する．
4）手術をうける不安感をもつ患者に温かく接し，信頼関係を築く．
5）BSL終了時には患者の病態・検査成績・治療方針・手術術式・合併症などを把握し，プレゼンテーションできるようにする．

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

主治医（臨床研修医，臨床研究医）とペアを組み病棟，各種検査室，手術室などで教員の指導を受ける．受持ち患者の検査，理学所見，手術所見を理解し，術前術後の病態を把握し，BSL終了時には十分説明出来るようにする．

● 事前・事後学習の内容

実習の前には乳腺・内分泌外科領域の悪性疾患の診断と治療法，術式と起こり得る術後合併症について一通り予習しておくこと．また，実習内容を理解し，身につけるために，主治医との議論の内容については当日にうちに復習することが望ましい．不明な点があれば，翌日に主治医または教員に確認すること．

● 評価方法

レポート、出席率、実習態度で成績を評価する。

● **受講生へのコメント**

患者・家族および医療スタッフと信頼関係を築くことのできるコミュニケーション能力を身につけるために，基本的事項として，医師に準じた服装で実習に参加し，言葉使い，時間厳守に注意すること．また，患者のプライバシーは厳守すること．

● **教材**

● **対象学年**

5 年生

● **コアカリキュラムへの対応**

E-3 腫瘍，F-3-6)-(3) 外科手技，G-1-1) 臨床実習，G-3-3) 外科手技，G-4-1)-(2) 外科

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● **その他**

ユニット名（C）

開講年度 2019 年

科目名	泌尿器科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Urology						

● 担当教員

コース主任　仲谷達也(教授)	武本佳昭（病院教授）	内田潤次（准教授）
鞍作克之（講師）	長沼俊秀（講師）	玉田　聡（講師）
井口太郎（講師）	菜原伸介（講師）	岩井友明（講師）
山﨑健史（講師）	加藤　実（病院講師）	大年太陽（病院講師）

● 科目の主題

泌尿器科学

腎泌尿器悪性疾患、慢性腎不全、腎移植、前立腺肥大症、尿路結石、間質性膀胱炎などの尿路生殖器疾患を扱う科である。

前立腺癌に対する前立腺全摘術、腎癌に対する腎部分切除術に手術支援ロボット da Vinci 等の最先端の手術や慢性腎不全の腎代替療法として腎移植、透析療法も積極的に行っている。

● 授業の到達目標

学習目標

(1) 一般目標（GIO：General Instructional Objectives）

1. 患者：家族と信頼関係を築くことができるコミュニケーション力を身につける。
2. 一般臨床医として必要な泌尿器科的知識を習得する。
3. 泌尿器科における基本的診察法、検査法、処置、治療法を体験、習得する。

即ち初期診療に必要な基本的診療法を身につけ、患者、家族との信頼関係を築き、泌尿器科疾患の診断を行うと共に局在診断、鑑別診断を行う事を学ぶ。

基本的な放射線学的検査法を理解し、読影力を身につける。

泌尿器科における超音波検査法を体得する。

慢性腎不全に対する透析療法について基本的知識を習得する。

腎移植について基本的な知識を習得する。

(2) 行動目標（SBO：Specific Behavioral Objectives）

1. 患者を疾患中心的ではなく、人格を持った一個人として捉え、全人的に対応する事を学び患者及びその家族からの信頼を得る。この意味でも服装は患者及びその家族に受け入れられやすいようなものとする。患者に接する場合 G パン、T シャツ、ポロシャツなどは認めない。
2. 患者・医療スタッフと良好な信頼関係を持つ。時間厳守、言葉使いはその中でも必要条件である。
3. 患者を受け持ち、問診および診察をし、カルテに記載する。
4. 診断に必要な臨床検査項目を選択する。必要に応じ、超音波検査を指導医の監督下に行う。
5. 受け持ち患者、所属チームの患者の画像を読影する
6. 受け持ち患者についてプレゼンテーションを行い、診断ならびに治療法についてディスカッションする。
7. 泌尿器科学的処置について学び、一般臨床医として必要なバルーンカテーテル挿入、膀胱洗浄などを指導医の監督下に行う。又、泌尿器科的処置について見学する。

8. 受け持ち患者の手術に清潔で入り見学すると共に、指導医の監督下に術者の補助を行う。
9. 透析の理論、機器、手技について見学、体験する。バスキュラーアクセス手術の見学、手術補助を行う。
10. 腎移植手術を見学し、手術の補助を行う。
11. 泌尿器科腹腔鏡手術のトレーニングを行う。
12. 手術支援ロボット（ダビンチ）の手術を体得する。時間があれば手術支援ロボットダビンチのスキルシュミレーターを用いてロボット支援手術を体験する。

(3) 学習方法（Learning Strategies）

1. 担当患者を紹介してもらい、患者および家族と接し、コミュニケーションの取り方を学習する。
2. 尿路性器悪性腫瘍患者、良性疾患患者、慢性腎不全患者（腎移植患者を含む）、尿路結石患者、一般外来受診患者の中から１名受け持つこととなる。予定であるが、受け持ち以外の泌尿器科疾患に対しても鑑別診断の意味も含めて学習しておく必要がある。質問には適宜主治医、担当医を含めた泌尿器科医師が対応し、又適切な文献を示す
3. 採血などを行い、また受け持ちの患者の検査ならびに手術に立ち会い、疾患に対する理解を深める。
4. 担当患者について、その病態と診断・治療方針などについて、主治医グループとディスカッションする。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

1. 参考文献に示した図書を用い予習を行う。腎・尿路・性器の解剖、泌尿器科疾患ならびに腎不全の病態症状、理学的検査法、泌尿器科学的検査法を予め理解しておくことは必須である。
2. ケースレポートを作成することによって、医療現場において学び、実践したことを検証・自己評価する。

● 評価方法

- 担当患者についてケースレポートを作成し、実践した医療について検証、自己評価する。
- 進級には実習の 2/3 以上の参加が必要で、一般臨床医としての必要最低限の泌尿器科知識を体験、習得したと判断できた場合とする。
- 診療科のスケジュールに沿った実習を行う。実習終了後は自己点検表を記入し、所属グループ担当教員の署名をもらう。
- 最終日までに所属グループ担当教員よりフィードバックを受ける。フィードバックにあたっては大阪市立大学のコンピエンス、教員評価表を中心に行う。必ず、最終日までに①外来症例リスト、②病棟・手術症例リスト、③学習目標到達度自己評価表が提示できるよう必要事項の記載を終了させる。BSL まとめの際、教授に提出する。

● 受講生へのコメント

参考文献および M4 授業資料を用い、腎・尿路・性器の解剖、泌尿器科疾患ならびに腎不全について予習が必要である。

● 教材

参考文献

1. Campbell’s Urology, eleventh edition, Saunders（全 4 巻）
2. 泌尿器腫瘍の化学療法　　杉村一誠・川嶋秀紀・仲谷達也編　協和企画
3. 新図説泌尿器科学講座　　（第 1～6 巻）　吉田修　監修　メジカルビュー社

4. Urologic　Surgery シリーズ　（第 1〜12 巻）　村井勝　編集　メジカルビュー社
5. 泌尿器科外来シリーズ　（第 1〜8 巻）　吉田修　監修　メジカルビュー社
6. ベッドサイド泌尿器科学　吉田修　編集　南江堂
7. 泌尿器科とわたし

＊教科書：医局にて閲覧可能

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

G　臨床実習に対応している

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（C）

開講年度 2019 年（ユニット型 CC）

科目名	皮膚科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Dermatology						

● 担当教員

コース主任　鶴田　大輔（教授）	菅原　弘二（准教授）	小澤　俊幸（准教授）
岡林　綾（助教）	夏見　亜希（助教）	大村　玲奈（助教）
橋本　隆（特任教授）	片山　一朗（特任教授）	藤原　作平（客員教授）
古川　福実（客員教授）	山田　秀和（客員教授）	大迫　順子（非常勤講師）
中西　健史（非常勤講師）	大磯　直毅（非常勤講師）	鈴木　民夫（非常勤講師）
加茂　理英（非常勤講師）	深井　和吉（非常勤講師）	

● 科目の主題

実際の診療を通じ皮膚科分野の知識と手技を獲得し、いずれの臨床科に進んだとしても生涯役立つ実践力を培う。また、医師としてあるべき態度を学び、医療の中の皮膚科学の役割を知る。

● 授業の到達目標

1. 皮膚科の基本的知識と臨床能力を身に付ける。
2. 患者、患者家族および全ての医療従事者と適切なコミュニケーションを取れるようにする。
3. 症例や皮膚科的知識について、日本語・英語を問わず適切にプレゼンテーションができる。
4. 外来で、できるだけ多数の症例を診て、皮膚科診断に必要な眼を養う。
5. 外来で、新規患者の問診と身体所見を取り、必要な鑑別疾患を考え、鑑別するための検査法と鑑別後の治療法について考える。
6. 病棟で、患者を受け持ち、所見を取り、検査と治療の計画を立てる。
7. 指導医（受け持ち患者の主治医）の指導のもとに行動するとともに積極的に治療に参加する。
8. 患者の気持ちを汲んで治療に当たる。
9. 患者の病態、検査、治療方針と結果、合併症および問題点をよく把握しプレゼンテーションできる。
10. 必要に応じて、英語を用いてプレゼンテーションを行う。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

事前学習では、皮膚科の教科書的な知識とともに、皮膚科的な問診や身体所見の取り方を押さえておくこと。

事後学習では、カンファレンス、外来実習、病棟実習で学んだことを『皮膚科レジデントマニュアル』などの教科書や参考書などで復習すること。

● 評価方法

教員や指導医による評価、担当患者プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。

● 受講生へのコメント

1. スケジュールに沿って実習に参加する。実習終了後は自己点検表を記入し担当教員の署名をもらうこと。
2. 積極的に診察、処置、検査、手術に参加すること。
3. 問診、診察などの際には患者への配慮を十分に行うこと。
4. 手洗い、マスク、手袋、エプロン着用など感染対策スタンダードプリコーションを徹底すること。

● 教材

鶴田　大輔（編）：皮膚科レジデントマニュアル（医学書院）（メイン教科書）
清水　宏（著）：あたらしい皮膚科学（中山書店）
田中　勝（著）：ダーモスコピー超簡単ガイド（秀潤社）
常深　祐一郎（著）：あれだ！即答トレーニング皮膚病理診断（秀潤社）
宮地良樹(著)：宮地教授直伝発疹のみかた(メディカルレビュー社)

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療
　D-3 皮膚系
G 臨床実習

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（C）

開講年度 2019 年

科目名	**形成外科**	単位数	―	授業形態	**実習**	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Plastic and reconstructive surgery						

● 担当教員

コース主任　元村尚嗣(教授)	羽多野隆治(准教授)	藤川平四朗(病院講師)

● 科目の主題

形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、生活の質 “Quality of Life” (QOL) の向上に貢献する、外科系の専門領域である。他の診療科とのもっとも大きな違いは、機能のみならず、形や色の異常を正常域に回復させることにより、個人を社会に適応させ、QOLを高めることを目指していることである。形成外科の歴史は、古代エジプトの紀元前2000年頃にまで遡り、そのころに編纂されたパピルスに組織移植や鼻骨骨折の治療について掲載されている。日本に形成外科が誕生してから半世紀以上経過しているにもかかわらず、まだ、あまり認知されていないのが現状である。形成外科疾患としては、主に1.外傷(熱傷、軟部組織損傷、顔面骨骨折など)、2.先天異常(口唇裂、口蓋裂、合多指症、頭蓋骨早期癒合症など)、3.腫瘍(皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍、腫瘍切除後の再建など)、4.瘢痕拘縮・ケロイド、5.難治性潰瘍(褥瘡、足潰瘍など)、6.美容外科等がある。最近、医学の進歩は著しく、手術適応の拡大が拡大されるに伴い他科と合同での再建手術が増加しており、また、自家培養表皮による熱傷の治療等も行っている。BSLでは形成外科学の特徴を学んでいただき、現代形成外科学の特徴を確実に理解し、いずれの臨床科に進んだとしても生涯役立つ実践力を培うことを目標とする。

● 授業の到達目標

(1) 一般目標 (GIO)

1. 一般臨床医になるために必要な形成外科の基本的臨床能力をできる限り習得し、形成外科患者の持つ精神的および社会的背景や問題点について十分に理解する。
2. 患者にとって医師の言葉、態度がいかに重要なものかを知り、暖かく信頼感に満ちた医師として治療すべきであることを体得する。
3. 各患者に関わるすべての医療従事者と共同で良好な人間関係を保ちつつ、よくコミュニケーションをとって治療を進めるべきことを知る。

(2) 行動目標 (SBO)

1. 創傷治癒理論および基本的な手術手技について理解して、説明できる。
2. 形成外科分野の外傷疾患について述べることができ、その治療法について考えることができる。
3. 再建外科を必要とする疾患について述べることができ、その方法や材料について考えることができる。
4. 先天性形成異常をきたす疾患およびその症状について的確に説明でき、その治療法について考えることができる。
5. レーザー治療に関して的確に説明でき、その対象疾患について述べることができる。
6. 基本的な縫合手技に関して、理解して実践できる。

ことを目標とする。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

術前には術式だけでなく、解剖もよく勉強しておいてください。

● 評価方法

1. 診療科のスケジュールに沿って実習を行って下さい。実習終了後は自己点検表を記入し担当教員の署名をもらって下さい。
2. 最終日には主担当教員からフィードバックを受けて下さい。フィードバックにあたっては、大阪市立大学のコンピテンス、教員評価表を中心に行います。それまでに、必ず、①病棟・手術症例リスト、②学習目標到達度自己点検評価表が提示できるように必要事項の記載を終了させて下さい。
3. ①病棟・手術症例リスト、②学習目標到達度自己点検評価表、③教員評価表、④患者アンケート、⑤指導体制評価表のコピーを学務課に提出してください。進級判定の材料とします。

● 受講生へのコメント

実習期間は一週間と短いですので、積極的に実習に参加してください。

● 教材

森口隆彦，鳥居修平，中塚貴志(編)：TEXT形成外科学（南山堂）

鬼塚卓彌(著)：形成外科手術書（南江堂）

平林慎一，鈴木茂彦(編)：標準形成外科学（医学書院）

倉田喜一郎(著)：Z 形成術とその他の皮膚形成術(克誠堂出版)

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

G　臨床実習

コアカリキュラムの方向性に沿った形で、今後、より簡潔で洗練された形に随時改訂していく予定である。

G-1　診療の基本

G-2　臨床推論

G-3　基本的臨床手技

G-4　診療科臨床実習

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅴ 科学的探究心 （智）

Ⅵ 教育マインド （仁）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

●その他

ユニット名（C）

開講年度 2019 年

科目名	整形外科	単位数	ー	授業形態	実習講義	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Orthopaedic Surgery						

● 担当教員

コース主任　中　村　博　亮	乾　　健太郎	寺　井　秀　富
星　　学	池　淵　充　彦	岡　田　充　弘
箕　田　行　秀	橋　本　祐　介	星　野　雅　俊
大　田　陽　一	鈴　木　亨　暢	豊　田　宏　光
市　川　耕　一		

● 科目の主題

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎外科、関節外科、リウマチ外科、手の外科、骨軟部腫瘍外科、スポーツ整形外科、肩外科、運動器リハビリテーションなどの各専門分野がある。各分野を機能的にローテーションすることで、運動器疾患のプライマリケアから最先端の手術までを学ぶことが出来る。

● 授業の到達目標

運動器疾患に対する系統だった医療面接、身体診察（圧痛部位の検索、神経診察、関節可動域、各種誘発テスト）、画像診断（単純X線、MRI、CT、関節造影、脊髄造影）の所見について理解する。治療方針については、確定診断に必要な検査計画や手術適応、手術部位の局所解剖について理解する。本コースでよくみられる疾患は、脊椎、膝・股・肩関節、手疾患、末梢神経疾患、関節リウマチ、骨軟部腫瘍等となる。

具体的な授業の到達目標は、診療参加型臨床実習のための学習ガイドに記載されている自己点検評価表で確認することが出来る。受け持ち患者については、プレゼンテーションを医師に交じって行い、受け持ち症例に完成ては医学文献検索を行いレポートにまとめる。

手術の基本手技、ギブス固定、関節エコー検査、シミュレーターを用いた関節鏡・腰椎穿刺トレーニングなど臨床手技の修得も目指す。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

各授業の前までに標準整形外科学に記載してされているそれぞれの授業に関係する項目を学習しておき、身体診察に関しては、共用試験医学系 OSCE テキスト（神経、四肢と脊柱）を熟読すること。また、学習内容を理解し、身に着けるためには授業中に質疑応答を行うことが重要である。また担当患者におけるプレゼンテーション準備とレポート作成には約 2 時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

● 評価方法

外来や病棟で担当した患者については、ユニット C の症例リストに記録し、各実習の終了後は学習目標到達度自己点検評価表を記入し担当教員の署名をもらうこと。また、実習終了時に受け持ち症例のまとめ、関連文献の要約、引用文献と受け持ち症例の関わりについて記載したレポートを最終日に提出すること。

これらの評価表を元に、主担当教員が学生を評価する教員評価表を作成し、フィードバックを行う。

教員評価表は、進級判定の材料となる。

● 受講生へのコメント

月曜日の 8 時に病院 18 階、第 3 会議室において術後カンファレンスを行っています。最初の集合は月曜日 8 時、場所は病院 18 階、第 3 会議室です。遅刻は厳禁です。
1 週目の月曜日には自己紹介をしてください。
水曜日の 7 時 30 分、病院 18 階、第 3 会議室に術前カンファレンスを行っています。
担当症例の原則 2 症例のプレゼンテーションを 1 週目と 2 週目の術前カンファレンスで行ってもらいます。
担当主治医とともに準備を行い、症例の病状を完全に把握し、1 週目は紙を見てもいいですが、2 週目は紙を見ずに、しっかりと大きな声でプレゼンテーションを行い、質疑応答に対応して下さい。
海外からの留学生が参加するカンファレンスのプレゼンテーションは原則英語で行ってもらいます。

● 教材

標準整形外科学（医学書院）
共用試験医学系 OSCE テキスト（神経、四肢と脊柱）

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

A（基本事項）
D2、4（神経系の一部、運動器-筋骨格系）
E4（関節リウマチ）
F1（症候・病態からのアプローチー運動麻痺、筋力低下、腰背部痛、関節痛・関節腫脹）
F2、3（基本的診療知識：臨床推論、根拠に基づいた医療、外科的治療、リハビリテーション、基本的診療技能：基本事項＋）
G（臨床実習ー外科系実習、特に運動麻痺、筋力低下、腰背部痛、関節痛・関節腫脹）

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名 （C）

開講年度 2019 年

科目名	神経精神科	単位数	ー	授業形態	講義実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Neuropsychiatry						

● 担当教員

コース主任　井上幸紀(教授)	岩崎進一（准教授）	宮脇大（講師）
片上素久（講師）	山内常生（講師）	松田泰範（講師）
出口裕彦（講師）	内田健太郎（講師）	原田朋子（講師）
後藤彩子（病院講師）		

● 科目の主題

医学部５年生　神経精神科クリニカル・クラークシップ

● 授業の到達目標

一般臨床医になるために必要な神経精神医学系の知識、技術を習得すると同時に患者との信頼関係、医療スタッフとの協調関係を築く習慣を身につける。

● 授業計画

医学部5回生　神経精神科クリニカルクラークシップ(H31年度)

CCの予定は以下の通りです。教員等の都合により変更もあります。

		月	火	水	木	金
第1週	9:00		外来実習	外来実習	外来実習	外来実習
	10:30	10:00～ オリエンテーション 患者面接法 担当患者紹介 原田	外来実習 (病棟実習)	外来実習 (病棟実習)	外来実習 (病棟実習)	外来実習 (病棟実習)
	12:00					
	13:00	病棟実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習
		14:00～ 統合失調症の 症例提示と検討会 山内	15:00～ 中毒性精神障害の 症例提示と検討会 片上	14:00～　(※) 教授回診 16:00～ カンファレンス 勉強会	15:00～ 神経症の 症例提示と検討会 岩崎	15:00～ 児童青年期の精神障害の 症例提示と検討会 後藤
	17:00	病棟実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習
第2週	9:00	外来実習	外来実習	外来実習	9:30～ 認知症の 症例提示と検討会 内田	外来実習
	10:30	外来実習 (病棟実習)	外来実習 (病棟実習)	外来実習 (病棟実習)		外来実習 (病棟実習)
	12:00					
	13:00	病棟実習	病棟実習	病棟実習		病棟実習
		15:00～ リエゾン精神医学の 症例提示と検討会 松田	15:00～ 気分障害の 症例提示と検討会 出口	14:00～　(※) 教授回診 16:00～ カンファレンス 勉強会	浜寺病院見学 (12:30同院集合)	13:30～ ケースプレゼンテーション 総まとめ 井上教授
	17:00	病棟実習	病棟実習	病棟実習		

● **事前・事後学習の内容**

事前学習としては、M4 で行った精神医学の系統講義の内容を各自復習し、当クリニカルクラークシップに望むこと。クリニカルクラークシップ終了後は、各自講義や、受け持った入院症例について自己学習した内容の復習を行うこと。

● **評価方法**

実習への出席を必須とし、午前と午後（2 回）の 1 日各 3 回の出欠確認を行う。病棟実習の出欠確認には、担当患者の当日のカルテ記載を行ったことを基本的に前提とする。なお出欠の確認は出欠表を持って行うため、コピーして最終日総まとめの前に医局秘書に提出すること。実習期間において入院患者 1 名を受け持ち、症例レポートを作成する。実習最終日に教授による総まとめを行い総合的に進級を判定する。

● **受講生へのコメント**

集合場所について

午前の集合場所

・初日のみ午前 10 時、学舎 11 階神経精神科医局に集合。ガイダンス、オリエンテーション、患者紹介を行う。
・初日ガイダンスおよび 2 週目の木曜日以外の午前は全て外来実習のため、指定された時間（午前 9 時または 10 時 30 分）に病院 3 階の神経精神科外来に集合し、診察室へは外来看護師の指示に従って分かれて入ること。外来診察の陪席するにおいては、十分に態度に気をつけること（タブレット禁止等)。また、陪席開始時、外来医に「M5」氏名を名乗り、予定している実習時間を伝えること。
・第 1 週目の月曜日が祝祭日にあたる場合、火曜日の午前にガイダンスを行い、その午後以降に患者紹介などを行う。

午後の集合場所

・水曜日と第 2 週目の木曜日・金曜日以外は、午後 1 時より病棟実習。午後 3 時（初日のみ 2 時）開始の教員による授業は、原則的に病院 6 階東病棟カンファレンスルームで行う。
・病棟実習では、主治医の指示に従うこと。（基本的に毎日診察の上、カルテ記載を行い、主治医や担当医に指導を受ける。
・水曜の午後（毎月第 3 水曜日以外）は教授回診のため午後 2 時に病院 6 階東病棟に集合。担当入院患者のプレゼンテーションを行う。
・回診終了後の午後 4 時からは学舎 11 階会議室でのカンファレンスに参加すること。
（※）第 3 水曜日は教授回診がなく、午後 2 時から学舎 11 階会議室　のカンファレンスに参加すること。この時、担当入院患者が 1 ヶ月以内の新入院患者であった場合、英語によるプレゼンテーションを行う。
・第 2 週目の木曜午後は浜寺病院見学実習がある。
・最終週(第 2 週)の金曜日午後は、午後 1 時 30 分より学舎棟 11 階神経精神科・教授室にて総まとめを行う。

その他注意事項

・病棟実習の際の病棟への出入りについて 6 階東病棟は閉鎖病棟であるため、病棟(食堂側）入り口からインターホンを押して入ること。その際には可能な限り全員まとまって病棟に入ること。
・各自、入院症例を 1 例担当する。担当患者決定後は、速やかに主治医と連絡を取り、指示を受けること。レポートの作成に関しても、早めに主治医と連絡を取ること。担当患者の面談には出来るだけ参加すること（面談予定について、電カルのメモ欄を毎日確認すること。主治医不在の場合や、その他不明な点は、その日の処置係が対応する。）
・電子カルテ内容をコピー出力すること、ならびに患者情報を病棟外へ持ち出すことは禁止。

浜寺病院見学実習

・浜寺病院で断酒会の見学および、講義を受ける院外実習である。
・アルコール依存症について学ぶ機会として、同院のご厚意により平成 30 年度中途から開始された実習である。
・各自で大学から移動し、12 時 30 分に浜寺病院 1 階外来受付集合、同院指導医の案内で断酒会会場である病棟に移動し、13 時より断酒会参加者対象の講義を受け、引き続き断酒会を見学する。断酒会終了後は同院指導医によるアルコール依存症についての講義を受け、終了後は浜寺病院で現地解散である。

医療法人微風会　浜寺病院　〒592-0003 大阪府高石市東羽衣 7-10-39

実習指導医：福原秀浩副院長、米澤隆副院長

・南海本線　羽衣駅より　徒歩 15 分
・JR 阪和線　富木駅より　徒歩 15 分
・服装は私服でよい（通常の通学に準じた服装でよいが、半ズボンやサンダル等は禁）。学生証を必ず携帯すること。

※浜寺病院実習についての事前ガイダンスを内田担当の「認知症の症例提示と検討会」の中で行う。

● 教材

参考書

井上令一、田宮滋子監訳：カプラン臨床精神医学テキスト　第2版　医学書院

大熊輝夫：現代臨床精神医学　第12版　金原出版

野村総一郎他編集：標準精神医学　第6版　医学書院

上島国利、丹羽真一編集：New　精神医学　第2版　南江堂

加藤進昌，神庭重信，笠井清登編集：TEXT精神医学　第2版　南山堂

秋元波留夫、山口成長編集：神経精神医学　第2版　創造出版

日本臨床精神神経薬理学会専門医制度委員会：臨床精神神経薬理学テキスト　第3版、星和書店

＊上記参考書は神経精神科医局にて閲覧可能

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

D-15 精神系

G-4 診療科臨床実習

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

● その他

ユニット名（D）

開講年度 2019 年

科目名	神経内科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Neurology						

● 担当教員

コース主任　伊藤　義彰(教授)	安部　貴人（准教授）	蔦田　強司（講師）
武田　景敏（講師）	三野　俊和（病院講師）	小坂　理（非常勤講師）
安宅　鈴香（非常勤講師）	田村　暁子（非常勤講師）	逢坂　麻由子（非常勤講師）
水田　秀子（非常勤講師）		

● 科目の主題

神経内科では脳、脊髄などの中枢神経から末梢神経、筋までの広い範囲の臓器障害を対象として取り扱う。疾患の種類も血管障害から炎症性疾患、感染、変性疾患と非常に多彩である。1 週間の外来・病棟実習では、実際の診療を通じて、神経診察、病巣診断、治療法など臨床に即した知識を学ぶ。また Skills Simulation Lab での実習では腰椎穿刺などの実技を習得する。

● 授業の到達目標

（1）神経系の系統的診察法を習得し、病巣部位の診断ができる。
（2）神経疾患の補助診断法(神経放射線、筋電図、脳波、髄液検査など)について理解し、結果の解釈ができる。
（3）代表的な神経疾患の病態と治療方法を理解する。

● 授業内容・授業計画

「実際に患者を診る」ことを基本とし、外来、検査見学、クルズス、モデルを用いた実習などで理解を深める。また、入院患者を担当し理解を深めプレゼンテーションができるようにする。短期間ですべてを網羅して学習するのは難しいため、積極的に担当患者以外の症例についても学習、理解していく。日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

神経内科の CC にあたり、OSCE で学習した神経所見の取り方を確認し、また M4 の神経診断学、神経症候学の授業内容をよく復習しておくこと。また、実習中の担当症例については、ユニット D 実習中には可能な限り経過を確認し、特殊な処置等があれば見学に来る。

● 評価方法

神経内科 CC における評価については、出席義務単位および必修単位の出席状況、実習ごとの担当教官による習熟度の評価、病棟実習での担当症例のプレゼンテーションの診療部長による評価などをあわせて点数化し、総合的に神経内科 CC としての評価を行う。

● 受講生へのコメント

・集合場所：11 階西病棟カンファレンスルームが基本。外来実習は病院 2 階に集合すること。
・担当者が予定時刻に現れない場合は、臨床上の急務などの可能性があるため、遠慮なく神経内科医局に電話で問い合わせること。

・担当症例は勝手に診察に行かず、まず受け持ち医から患者さんを紹介してもらった上で診察すること。
・それぞれの患者さんの安静度を理解した上で診察を行うこと。
・医療面接、診察の際に、患者さんから病状、疾患について質問、相談されても、「学生の立場では返答できない」ことを伝え、みだりにカルテで知り得た情報や自分の判断を伝えないこと。
・担当症例の診察は、患者さんの病状、疲労度を考慮して、患者さんの負担にならないように行うこと。
・担当症例の検査（特に生理学的検査、腰椎穿刺）、リハビリなどには積極的に付き添うこと。
・担当症例とトラブルになりそうなときや、病棟で思いがけないインシデントに巻きこまれた時は、患者さんの主治医に直ちに報告すること。
・実習期間中、風邪など感染性疾患に罹患した場合、登校せずに電話にて、学務課および神経内科医局に欠席の連絡をいれること。

● 教材

以下に参考書を示す

【神経診断学】

鈴木則宏（編）：神経診察クローズアップ（メジカルビュー社）

後藤文男，天野隆弘：臨床のための神経機能解剖学（中外医学社）

【Neurology】

Merritt’s Neurology. Elan D. Luis (Ed)

Adams & Victor’s Principles of Neurology. Allan H. Ropper (Ed)

【神経画像診断学】

細矢貴亮、興梠征典、三木幸雄、山田恵：脳の MRI（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

D-2　神経系

E-8　加齢と老化

F-1-7　意識障害

F-1-8　けいれん

F-1-9　めまい

F-1-32　物忘れ

F-1-33　頭痛

F-1-34　運動麻痺・筋力低下

G-2-7　意識障害

G-2-8　けいれん

G-2-9　めまい

G-2-32　物忘れ

G-2-33　頭痛

G-2-34　運動麻痺・筋力低下

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（D）

開講年度 2019 年

科目名	眼科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Ophthalmology						

● 担当教員

コース主任　本田　茂(教授)	上野洋祐（病院講師）	
河野剛也（病院教授）	平山公美子（助教）	
山本学（講師）	三浦央子(ドイツリューベック大学　網膜疾患研究班　ユニットリーダー)	
田上瑞記（講師）	上江田信彦（上江田眼科医院）	

● 科目の主題

視覚に関わる器官の構造と機能を理解し、眼疾患の病態と治療を学習すること

● 授業の到達目標

白内障、緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症、ぶどう膜炎等の病態と治療を理解する
白内障手術をはじめとする実際の眼科手術を理解する
豚眼を用いた白内障手術実習を通してマイクロサージャリーの特徴を理解する

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

授業までに指定教科書を学習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ 2 時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

● 評価方法

レポート(100 点)とし、60 点以上を合格とする。ただし、眼科必須科目の全出席が必要条件である。

● 受講生へのコメント

視覚障害者である患者の心理的状況を理解して接すること。

● 教材

坪田一男編集：TEXT眼科学（南山堂）
木下茂編集：標準眼科学（医学書院）
渡連郁緒・新美克彦：イラスト眼科（文光堂）
所　　敬・吉田 晃敏・谷原 秀信：現代の眼科学（金原出版）
丸尾敏夫：エッセンシャル眼科学（医歯薬出版）

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

G 臨床実習

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅴ 科学的探究心 （智）

Ⅵ 教育マインド （仁）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（D）

開講年度 2019 年

科目名	耳鼻咽喉科 (耳鼻咽喉科学･頭頸部外科学)	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Otorhinolaryngology						

● 担当教員

コース主任　　角南貴司子	大石賢弥（助教）	萩原訓子(樋上耳鼻咽喉科)
阪本浩一　（病院教授）	岡本幸美(病院講師)	中野友明（淀川キリスト教病院）
角南貴司子（准教授）	森口誠（森口耳鼻咽喉科）	岡田博文(大阪鉄道病院)
山本秀文（山本耳鼻咽喉科）	横田知衣子(病院講師)	坂本平守(坂本耳鼻咽喉科クリニック)
高野さくらこ（講師）	加藤匠子（加藤耳鼻咽喉科）	

● 科目の主題

耳鼻咽喉科学に必要な症候学の知識に精通し、適切な問診がとれる能力を有すると共に、患者心理を理解して問診する態度を身につける（患者の受け入れ、問診）。外来で行い得る検査方法や検査機器を理解し、必要にして十分な検査を行い得る能力を持つ（診断、検査）。問診、症状、所見による診断並びに鑑別診断を行う能力を持つ（鑑別診断）。

● 授業の到達目標

頭頸部腫瘍、中耳疾患、難聴、めまい疾患について代表的な疾患の原因、検査所見、治療法について理解する。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

授業までに指定教科書を学習しておくこと。M4 での講義を復習しておくこと。M4 授業で使用したプリントは持参すること。各授業の前後にそれぞれ 2 時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

● 評価方法

レポート(100 点)とし、60 点以上を合格とする。ただし、耳鼻咽喉科必須科目の全出席が必要条件である。

● 受講生へのコメント

耳鼻咽喉科頭頸部外科の症例は難聴や音声機能障害（気管切開などによる）など音声によるコミュニケーションが困難な事がある。そのような症例の心理状況を理解して接すること。

● 教材

Adams, BoiesandPaparella：FundamentalsofOtolaryngology (Saunders)

English：Otolaryngolo幻r, ATextbook (Harper&Row)

PaparellaM∴Otolaryngology (Saunders)

切替一郎・野村恭也：新耳鼻咽喉科学 (南山堂)

広戸幾一郎：小耳鼻咽喉科書 (金芳堂)

加我君孝・市村恵一・新美戊二：新臨床耳鼻咽喉科学・（中外医学社）
頭頸部の臨床画像診断学　（南江堂）
耳鼻咽喉・頭頸部　手術アトラス　（上下巻）
新臨床耳鼻咽喉科学　（1～5 巻）
CLIENT　21　21 世紀耳鼻咽喉科領域の臨床　（1～21 巻）

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

D-14
E-3
E-4
F-1-9)
F-1-15)
F-1-19)
F-2-9)-(2)
F-3
G 臨床実習

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（D）

開講年度 2019 年

科目名	脳神経外科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Neurosurgery						

● 担当教員

コース主任： 大畑建治 脳神経外科 教授 （ カリキュラム委員 一ノ瀬 努 ）		
坂本 博昭 脳神経外科 特任教授	川原 慎一 脳神経外科 講師	中条 公輔 脳神経外科 病院講師
一ノ瀬 努 脳神経外科 講師	宇田 武弘 脳神経外科 講師	有馬 大紀 脳神経外科 病院講師
高見 俊宏 脳神経外科 准教授	内藤堅太郎 脳神経外科 講師	夫 由彦 脳神経外科 協力病院
後藤 剛夫 脳神経外科 講師	森迫 拓貴 脳神経外科 講師	岩井 謙育 脳神経外科 協力病院

● 科目の主題

脳腫瘍、脳血管障害、脊髄脊椎疾患、てんかん、顔面けいれんなどの機能疾患、頭部外傷の診断、外科治療

● 実習の到達目標

Ⅰ．毎朝の症例検討カンファレンスにおいて

1） 提示される患者の病態、画像診断、治療計画が理解できる。

2） 英語で行われる症例検討に積極的に参加し、意見や疑問を述べることができる。

3） 海外からの留学生とコミュニケーションをとり、積極的に交流関係を築くことができる。

Ⅱ．入院患者病棟において

1）スチューデントドクターとして患者と適切なコミュニケーションがとれる。

2）担当患者の病歴、理学所見、神経学的所見を正確にとり、診療録に記録することができる。

3）病歴、神経学的所見等をもとに局在診断と鑑別診断ができる。

4）指導医や他のメディカルワーカーと協調し、チームの一員として適切なコミュニケーションがとれる。

5）担当患者の治療説明に指導医と同席し、その説明方法や態度を学修する。

6）指導医と病棟回診を行い、担当患者の日々の病態、治療計画を把握することができる。

Ⅲ．手術参加において

1）手術患者の病態や病変の局在、関連する解剖学的、機能的事象を理解できる。

2）覚醒下手術、術中神経生理モニタリング、手術支援ナビゲーションの目的を理解できる。

3）手術体位や皮膚切開、開頭方法を理解することができる。

4）手洗いや清潔操作の意味を理解し、実践することができる。

5）指導の下で吸引操作や糸結び等の手術手技を実践し、アシスタントとして手術参加することができる。

Ⅳ．診療グループ別講義、院外実習において

1）常に時間厳守で行動することができる。

2）講義内容については概略をまとめ、後に自学自修を行い、知識を整理することができる。

3）最新の医療、医学についても興味をもち、医学論文等の検索、抄読を行うことができる。

4）院外実習では地域医療、救急医療の在り方、地域医療連携の重要性を学修する。

5）大阪市立大学の使命（地域社会や市民への貢献）について理解している。

V．教授総括（最終日）において

1）担当患者の病歴、神経学的所見、画像検査所見、手術所見、治療経過、その他疾患に関連する事項をスライドにまとめ、プレゼンテーションすることができる。

2）症例や実習全体を通して学んだことを他の学生と共有し、意見交換することができる。

3）臨床実習のあり方について感想を述べ教員と意見交換することができる。

● 実習内容・実習計画

４つの診療グループ（頭蓋底外科/脊椎脊髄外科/グリオーマ・てんかん外科/脳血管障害）のいずれかに配属し、指導医の下で実習を行う。座学を最小限とし、手術参加を中心とした「診療参加型臨床実習」の実践を目指す。学生教育を担当する CC マネージャーが日々の総括を行い、実習の進捗をモニターする。
最終日の教授総括では学生による症例報告会を実施し、学修効果の評価を行う。

	月	火	水	木	金
第1週	オリエンテーション（川原・山中） 手術参加	手術参加	外来診療見学	院外実習 大阪市立総合医療センター	手術参加
	手術参加 頭蓋底外科 講義（後藤・森迫）	手術参加 頭蓋底外科 講義（後藤・森迫）	手術参加 グリオーマ/てんかん講義（宇田・中条）	手術参加	手術参加
	月	火	水	木	金
第2週	手術参加	院外実習 ツカザキ病院	手術参加	手術参加	プレゼン準備
	手術参加 脳血管障害 講義（有馬・渡部）		手術参加 脊椎脊髄外科 講義（高見・内藤）	手術参加	大畑教授 総括 学生プレゼン
手術	頭蓋底外科	脊椎脊髄外科 グリオーマ/てんかん	脊椎脊髄外科	頭蓋底外科 脊椎脊髄外科	頭蓋底外科 グリオーマ/てんかん 脳血管内治療
他			合同カンファレンス（隔週）	抄読会	総回診

● 事前・事後学習の内容

脳神経外科より配布する臨床実習テキスト及び参考図書を参考に、担当患者の神経診察、病態、治療法について事前、事後学習を行う。疑問点はその都度担当教員に確認し、理解を深める。

● 評価方法

1）実習態度：カンファレンスや講義、日々の総括への出席状況、手術や病棟業務への参加状況を基に評価を行う。（時間厳守とし、無断欠席や遅刻は大幅な減点対象とする。）
カンファレンス等での積極的な質問・発言、留学生との交流は加点の対象とする。

2）知 識：学習状況、理解度については日々の総括の中で評価し、基本的なレベルに達しない場合はレポート等の課題提出を求めることがある。

3）技 能：教授総括でのプレゼンテーションを総合的に評価する。
（適切なスライドの準備、時間配分、説明態度や流暢さ、考察能力、質疑応答など）

● 学生へのコメント

毎朝行われるカンファレンスには必ず参加すること。英語での症例提示、治療法検討に積極的に参加して、脳神経外科知識を深めるとともに英語での発信力を高めること。症例提示、病棟回診ともに英語であるため、事前に基本医学英語を理解しておくこと。

● 教　材

脳神経外科教室作成臨床実習テキスト

参考図書　1）太田富雄著　脳神経外科学（金芳堂）
2）田嶋義昭著　ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）
3）後藤文男著　臨床のための神経機能解剖学（中外医学社）
4）橋本信夫著　脳神経外科臨床指針（中外医学社）
5）田村晃・松谷雅生・清水輝夫著　EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針（メディカルビュー社）
6）三木幸雄　佐藤典子著　下垂体の画像診断（メディカルビュー社）
7）RHOTON: 頭蓋内脳神経解剖と手術アプローチ（南江堂）

● 対象学年

5年生

● コアカリキュラムへの対応

G：臨床実習

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（D）

臨床実習評価表

達成度の目安：よくできた(80%以上)、できた(60-80%)、不十分(60-40%)、出来なかった(40%未満)

Ⅰ　プロフェッショナリズム				
責任感のある行動（時間管理、身だしなみ、言葉づかい等）	よくできた	できた	不十分	できなかった
病棟での積極的な行動（病歴聴取、神経診察）	よくできた	できた	不十分	できなかった
カンファレンスでの積極的な行動（質問、質疑応答等）	よくできた	できた	不十分	できなかった
Ⅱ　コミュニケーション力				
入院症例（目標 4 例）	よくできた	できた	不十分	できなかった
手術症例（目標 2 例）	よくできた	できた	不十分	できなかった
Ⅲ　医学および関連領域の知識				
脳神経外科疾患の病態理解	よくできた	できた	不十分	できなかった
症状がある部位の局在診断	よくできた	できた	不十分	できなかった
脳脊髄解剖の理解	よくできた	できた	不十分	できなかった
Ⅳ　基本的総合診療能力				
脳神経外科の基本的診察手技（神経学的所見）	よくできた	できた	不十分	できなかった
外科手技（手洗い、清潔操作、結紮など）	よくできた	できた	不十分	できなかった
CT,MRI の基本画像診断能力	よくできた	できた	不十分	できなかった
Ⅴ　科学的探求心				
疑問を持つ姿勢	よくできた	できた	不十分	できなかった
経験した症例に対する文献的検索	よくできた	できた	不十分	できなかった
Ⅵ　教育マインド				
グループ内の情報共有	よくできた	できた	不十分	できなかった
屋根瓦式教育（後輩を指導する機会）	よくできた	できた	不十分	できなかった
Ⅶ　グローバルシンキング				
脳神経外科で使用する医学英語を理解し、表現できる英語力	よくできた	できた	不十分	できなかった
PubMed を使って文献検索ができる	よくできた	できた	不十分	できなかった
Ⅷ　大阪住民の幸福と発展への貢献力				
社会、地域からの医療に対するニーズを理解できる。	よくできた	できた	不十分	できなかった
都市型医療が抱える問題点ついて考察する	よくできた	できた	不十分	できなかった

開講年度 2019 年

科目名	産婦人科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Obstetrics and Gynecology						

● 担当教員

コース主任　古山　将康(教授)	市村　友季	羽室　明洋
コース主任　角　俊幸(教授)	橋口　裕紀	山内　真
安井　智代	三枚　卓也	笠井　真理
橘　大介	福田　武史	田原　三枝

● 科目の主題

周産期、婦人科腫瘍、女性ヘルスケア、不妊内分泌

● 授業の到達目標

(1) 一般診察の基本的な技能を身につける。
(2) 産婦人科の基本的な技能を身につける。
(3) 患者の状態を把握し、治療方針を立てられる能力を身につける。
(4) 社会人として医師としての常識・倫理観を身につける。
(5) 患者および家族との信頼関係を形成する。
(6) 医師およびスタッフとの協調的な人間関係を形成する。
(7) 患者を診断し、治療方針を決定するための産婦人科領域の基礎的な知識を持つ。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

(一般)

(1) 医師としてふさわしい服装で患者に接することができる。
(2) 産婦人科診察の特殊性について理解できる。
(3) 医師及び他の医療従事者との良好な人間関係を形成することができる。
(4) 実習・講義には積極的な態度で参加することができる。
(5) 患者から的確かつ円滑に病歴を聴取することができる。
(6) 全身の身体所見をとることができる。
(7) 必要な検査計画を立てることができる。
(8) 集めた情報から的確に診断することができる。
(9) 治療計画を立てることができる。
(10) カルテに適正に記載することができる。
(11) 他の医師に的確にプレゼンテーションすることができる。
(12) 採血、点滴、注射（静脈、筋肉、皮下)、包帯交換などの手順を理解し、実施できる。

(産婦人科)

(1) 各種産婦人科診察法について理解し、実施できる。
(2) 各種婦人科診断法について理解し、評価できる。
(3) 各種産婦人科補助診断法について理解し、評価できる。
(4) 各種治療法（手術療法、化学療法、放射線療法、内分泌療法、胎内治療、子宮収縮調節法など）について理解し、その内容を述べることができる。

(産科)

(1) 妊娠を診断でき、分娩予定日を算出することができる。
(2) 胎児の well-being を評価することができる。
(3) 正常妊婦・異常妊娠の管理を理解し、述べることができる。
(4) 正常分娩・異常分娩（適応・処置）について理解し、述べることができる。
(5) 正常産褥・異常産褥の経過について理解し、述べることができる。
(6) 新生児を診察でき、異常を発見することができる。

(不妊・内分泌)

(1) 内分泌異常について理解し、病態・治療法を述べることができる。
(2) 不妊症について理解し、病態・治療法を述べることができる。
(3) 各種排卵誘発法について理解し、述べることができる。
(4) 人工受精、体外受精について理解し、述べることができる。

(婦人科)

(1) 婦人科炎症性疾患について理解し、述べることができる。
(2) 性器の形態異常、位置異常の発生・病態・治療法について理解し述べることができる。
(3) 外陰・膣・子宮・卵巣・卵管の腫瘍（良性・悪性）について理解し、述べることができる。
(4) 手術適応となる疾患について熟知し、手術療法に参加し、術後管理を行う。

(女性ヘルスケア)

(1) 性器の形態異常、位置異常の発生・病態・治療法について理解し述べることができる。
(2) 骨盤臓器脱のメカニズムについて説明することができる。
(3) 骨盤臓器脱の修復手術について術式とその特徴を述べることができる。
(4) 加齢に伴う女性のライフステージを各段階で述べることができる。

● 評価方法

全ての実習への出席を必須とする。担当者の評価(実習や討論への参加状況等)をもとに評価する。

● 受講生へのコメント

範囲は広いですが理解しやすいように工夫しております。気軽にご質問下さい。

● 教材

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

D-9　生殖機能
D-10　妊娠と分娩

E-7-1)胎児・新生児

G-2-30)月経異常

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅴ 科学的探究心 （智）

Ⅵ 教育マインド （仁）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

１．ユニット名（E）

開講年度 2019 年

科目名	小児科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Pediatrics						

● 担当教員

コース主任　濱崎考史（教授）	時政定雄（准教授）	川村智行（講師）
瀬戸俊之（講師）	徳原大介（講師）	佐久間悟（講師）
大西　聡（講師）	西垣五月（講師）	

● 科目の主題

“child is not little man”との格言に示されたように、小児は絶えざる成長と発達を示す点が最大の特徴である。また、小児疾患は生物学的のみならず遺伝的、歴史的、社会的要因によって規定される部分も大きい。したがって、小児科学は単に疾患個体に着目するだけではなく、成長発達する健常小児の理解とその社会文化的背景を同時に勘案した総合科学であることを要する。診療参加型臨床実習では病棟（一般小児科病棟、未熟児新生児病棟）、外来にて実際行われている診療に関わる実地指導をおこなう。すなわち、病歴の聴取とそこから想起されうる鑑別診断、身体所見と、検査データの評価、治療法の選択と実施に至る知識習得と思考過程のトレーニングが主たる眼目である。同時に、不幸にして病を得た患児、家族との共感を形成すること、他のスタッフとの協力体制の重要性の認識などについても配慮してほしい。また、講義でカバーできなかった細かな点をミニレクチャーの形式で補うとともに、学生諸氏とも活発にディスカッションしたいと考えている。

● 授業の到達目標

健康な子どもの発達段階に応じた心身の特性を理解し述べることができる。
子どもの成長発達に応じた面接・診察技能を学び、保護者の情報と患児の観察から病態を推察する『初期印象診断』能力を修得する。子どもの成長発達段階に応じた各種検査方法の適応と結果の読み方を理解し、鑑別診断を挙げることができる。
小児の代表的疾患について病態を理解し、おおまかな治療のプランをたてることができる。

● 授業内容・授業計画

担当スタッフと１対１で小児科病棟・外来・検査の場に付き、診療に参加する。
教授外来、乳児健診、NICU実習、初診問診実習、教授回診、カンファレンス、ミニレクチャー、新生児蘇生法SSC、まとめは全員参加で行う。これ以外はそれぞれの担当スタッフに付いて患者の診察、処置などの見学あるいは実習を行う。小講義では、スタッフが今日的話題や基礎知識の講義を行う。
日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

主にミニレクチャーでとりあげる領域について、全体講義の内容を復習しておくことが望ましい。

● 評価方法

出席率および学習ガイドに掲載されている学習目標到達度・自己点検評価表の項目について4段階評価の予定。
配布するレポート用紙に担当症例について要約を行い提出する。

● **受講生へのコメント**

医師として必要な倫理観をもち患者と接する、また他のスタッフと良好な人間関係をもつ。自主的に学習する姿勢と方法を身につける。患児だけでなく保護者の不安を受け止め、心理状態を理解する。

● **教材**

全体講義で配布したプリントなど

● **対象学年**

5年生

● **コアカリキュラムへの対応**

A 医師として求められる基本的な資質・能力

F 診療の基本　　F-1 症候・病態からのアプローチ

F-3 基本的診療技能

G　臨床実習　G-1 診療の基本 G-1-1) 臨床実習

G-2 臨床推論

G-4 診療科臨床実習 G-4-1) 必ず経験すべき診療科 G-4-1)-(3) 小児科

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅴ 科学的探究心 （智）

Ⅵ 教育マインド （仁）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● **その他**

ユニット名 （E）

開講年度 2019 年

科目名	小児外科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	pediatric surgery						

● 担当教員

コース主任　柴田利彦(教授)	ユニットディレクター　堀池正樹（小児外科学）

● 科目の主題

小児外科の基本的事項の把握と臨床医として最低限度必要な小児外科学の常識を身に付ける。
小児外科 common disease と小児外科重要疾患の病態，診断，治療（の学習方法）を理解する。

● 授業の到達目標

1. 小児外科疾患の特殊性を理解する
2. 小児外科医が必要な理由を考える
3. 小児外科疾患の基本概念を理解する
4. 小児外科医の利用方法（患者の紹介方法）を学ぶ

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照
小児外科手術、外来診療に参加して上記を身につける。

● 事前・事後学習の内容

4 年生の講義時に配布したチェックリスト参照(Moodle 参照)

● 評価方法

口頭試問
定期試験

● 受講生へのコメント

臨床家として日常の診療をする際に必要となる小児の外科疾患の基本を学んでほしい。
最も頻度の高い小児鼠径ヘルニアについては復習しておいてください。

● 教材

標準小児外科学　医学書院

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

G　臨床実習

1) 小児外科疾患の手術手技の特徴(脆弱性に対する配慮など)を理解する。

2) 小児外科疾患の主訴から診断、治療（手術）までの一連の流れを理解する。

3) 子どもの手術に対する保護者の強い不安を理解し、傾聴・共感できるようにする。

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

● **その他**

ユニット名（E）

開講年度 2019 年

科目名	血液内科 （血液内科学・臨床検査医学）	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Hematology and Laboratory Medicine						

● 担当教員

コース主任　日野雅之（教授）	中前博久（准教授）	中根孝彦（講師）
中嶋康博（講師）	康　秀男（講師）	中前美佳（病院講師）
廣瀬朝生（病院講師）	西本光孝（病院講師）	武岡康信（病院講師）

● 科目の主題

医学生は、外来および病棟において血液疾患患者を担当し、クリニカル・クラークシップ（診療参加型臨床実習：CC）により、教員、チューターおよび大学院生（医員）、研究医の指導の下で、診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、全人的な医師としての知識・思考法・技能・態度の基本的な内容を学ぶことを目的としている。

● 授業の到達目標

(1) 基本的な診療に必要な知識・技能・態度を身につける。
(2) 緊急処置を必要とする患者の初期診療に関する基本的臨床能力を修得する。
(3) 患者（および家族）との間に望ましいコミュニケーションを形成し、より良い人間関係を確立しようとする態度を身につける。
(4) 診療に必要な診断・治療法の内容と結果、それらの副作用・不利益などを含めて、患者（および家族）に共感的な態度で説明・指導をする能力を身につける。
(5) チーム医療において、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、その他のスタッフと協調できる態度・習慣を身につける。
(6) 指導医、他の診療科または他の医療施設に委ねるべき問題がある場合に、適切に状況判断をし、必要な診療記録を添えて紹介・転送することができる。
(7) 医療評価や臨床疫学研究の基礎的資料としても利用できる診療録を作成する能力を身につける。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

学生は自ら最新の知見を含めて情報を収集し、教科書的知識だけでなく現場での思考法や実技、医療や学習への態度も含めて医師の職業的能力を総合的に学ぶだけでなく、実際の患者及びその家族や医師以外の医療職を相手に現場の業務を実体験しながら実践的に学ぶことが必要である。実際の患者を診るに際しては、知識だけではなく、技能についても予習してくるのは当然であり、知識、態度、技術において、一定の基準に達していることが必要である。医師になる者としての態度に問題がある学生や感染防止対策・医療安全管理が実践できない学生は、患者に不利益をもたらす可能性があるため実習には参加させない。

実習で経験したことは、事後に教科書やインターネットなどで確認し、知識として定着させること。

● 評価方法

以下を総合低に評価する。
担当教員、患者、医療従事者による評価
担当患者について学習した内容の発表
提出したプレゼンテーションファイル（パワーポイント）

● 受講生へのコメント

(1) 担当患者は自由に診察できるが、ほとんどの患者は命をかけた治療をしており、マスクと衛生的手洗いによる感染防止は、忘れずに行うこと。
(2) 学生が手技を行うことに患者の承諾を得る条件として、学生が十分勉強と予習をしていることが必要である（採血やルートキープ、骨髄穿刺などは、DVD をみて予習しておくこと)。朝の採血は看護師が行っているので、採血実習に来る場合は、前日に当直医に相談すること。自信がなければ教員に相談して、十分練習しておくこと。
(3) CV 実習はスキルスシミュレーションセンター(SCC)で実施する。準備と片付けをきちんとすること(不十分な場合は中止になる)。また、態度についての患者および看護師の評価が悪い場合は、参加できない。
(4) 医療チームの一員という自覚を持って行動すること（できることは積極的に手伝う)。患者について気付いたことは、医師か看護師に必ず伝えること。医療チームの一員としてカルテには積極的に記載すること（ただし、公文書であることを意識すること)。
(5) 遅刻厳禁！
(6) 外来実習（１人）の際、外来の看護師に「新患いますか」と声をかけ、患者を割り当ててもらうこと、医療面接をする場合は患者の訴えだけを書くのではなく、考えながら問診し、電子カルテに記載すること。終了したら、担当医にプレゼンテーションする。
(7) 教員によるセミナーがあるので所定時間に 7F 病棟のカンファレンス室に集合（もし、教員が遅い場合は問い合わせること)。
(8) 看護師にも認識してもらうため、第１火曜日に看護師の申し送りで自己紹介すること（受け持ち患者も伝えること)。最終日は挨拶すること。私語は厳禁。
(9) 病棟のコピーは医療業務に使うためのものであり、使用しないこと。
(10) 最終週月曜日のカンファレンスで受け持ち患者のプレゼンテーションを行なう（2 分以内)。事前に学生同士で練習をしておくこと。最終週木曜日の Closing remarks で受け持ち患者のプレゼンテーションをパワーポイントで行う（5 分以内)。
(11) 骨髄採取やセカンドオピニオンに参加したい場合は、日野まで連絡（必ずあるとは限らない)。
(12) 実習についての希望がある場合は、最初に伝えること。(血液内科に興味がある場合は、特別コースも用意する)

● 教材

日本血液学会　血液専門医テキスト（改訂第 2 版）　南江堂
日本血液学会　造血器腫瘍診療ガイドライン（http://www.jshem.or.jp/gui-hemali/index.html）

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

D　人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療

　1　血液･造血器・リンパ系

F　診療の基本

G　臨床実習

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅴ 科学的探究心 （智）

Ⅵ 教育マインド （智、仁）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

ユニット名（E）

開講年度 2019 年

科目名	麻酔科	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Anesthesiology						

● 担当教員

コース主任　西川　精宣(教授)	森　隆(准教授)	土屋　正彦(准教授)
山田　徳洪(准教授)	矢部　充英(講師)	堀　耕太郎(講師)
田中　克明(講師)	松浦　正(講師)	末廣　浩一(講師)
舟井　優介(講師)	山崎　広之(講師)	藤本　陽平(病院講師)

● 科目の主題

麻酔科学は病態生理学と臨床薬理学を基礎とし、最新の医療機器を駆使して生体機能を管理調節する臨床応用医学である。クリニカルクラークシップのプログラムは学生が診療に積極的に参加できるよう構成した。患者の問題点を把握して解決する能力を身につけ、医療チームの一員として良好なコミュニケーションをとることを目標とする。

● 授業の到達目標

気道確保が行える。
人工呼吸が行える。
術前患者の問題点を見いだし、評価して麻酔計画を立てることができる。
適切な麻酔導入方法を選択できる。
麻酔薬、血管作動薬を投与できる。
各種周術期モニターを監視し、正常・異常を鑑別できる。
輸液管理を行える。
区域麻酔の適応を判断できる。
麻酔からの回復を評価できる。
麻酔の合併症を説明できる。
ペインクリニック・緩和医療について概説できる。

● 授業内容・授業計画

日程詳細は学習ガイド参照

● 事前・事後学習の内容

実習初日に小テストを行う。小テストの設問・解答は学習ガイドに掲載されている。事前に予習しておくことが望ましい。

● 評価方法

出席、レポート提出および試験
試験は筆記および口頭試験を適宜実施する。

● 受講生へのコメント

講義･実習中の態度も評価対象であり、必要に応じて加点･減点する。

● 教材

ミラー麻酔科学　メディカルサイエンスインターナショナル　2007

周術期管理チームテキスト第 3 版　日本麻酔科学会・周術期管理チームプロジェクト 2016

STEP 麻酔科第 4 版　高野義人　海馬書房 2012

標準麻酔科学第 7 版　古家 仁　医学書院　2011

心臓手術の周術期管理　メディカルサイエンスインターナショナル　2008

● 対象学年

5 年生

● コアカリキュラムへの対応

C 医学一般 3 個体の反応 3) 生体と薬物

F 診療の基本

2 基本的診療知識 8)薬物治療の基本原理 9)外科的治療と周術期管理 10)麻酔　11) 食事・栄養療法と輸液療法 12) 医療機器と人工臓器 13)輸血と移植 16)緩和医療

3 基本的臨床技能 6)基本的臨床手技

G 実習 3 基本的臨床手技 1) 一般手技 2)検査手技 3)外科手技 4)シミュレーション教育

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）

Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）

Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）

Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）

Ⅴ 科学的探究心 （智）

Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）

● その他

ユニット名（E）

開講年度 2019 年

科目名	救命救急科（救急医学）	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3501
英語表記	Emergency Medicine						

● 担当教員

コース主任　溝端 康光(教授)		
山本 啓雅（病院教授）	西村 哲郎（准教授）	
晋山 直樹（助教）	野田 智宏（病院講師）	加賀 慎一郎（病院講師）
内田 健一郎（病院講師）		

● 科目の主題

- 一般臨床医として、救急医療体制を理解する。
- 急性疾患および外傷患者の診療を理解し、診療チームの一員として救急医療に参加する。
- 集中治療管理を必要とする患者の病態と治療を理解する。

● 授業の到達目標

1）一般目標（GIO：General Instructional Objective）

- 医師として、真摯に学習する姿勢を身につける。
- 一般臨床医として必要な、急性疾患患者の診察および治療法を習得する。
- 一般診療医として必要な、外傷患者の診察および治療法を習得する。

2）行動目標（SBO：Specific Behavioral Objective）

- 救急患者に対し、身体面のみでなく精神面・生活面に配慮した対応を行うことができる。
- 患者の家族に対し、精神面に配慮した対応を行うことができる。
- 救急救命士からの指示要請への対応について述べることができる。
- 大阪府救急医療情報システムの機能、入力業務について述べることができる。
- 外傷患者の診療手順について述べることができる。
- 救急患者の病態・治療経過等についてプレゼンテーションすることができる。
- 救急患者の病態・治療等につき、テキスト等を用いて自己学習しまとめることができる。
- 都市における救急医療の実態を、大阪市消防局救急隊員の救急活動を通して体験する。

3）学習方略

- 救急初期診療の参加・見学を行う。
- 担当患者の病歴・治療方針・治療計画を理解する。
- 申し送りに参加して、担当患者のプレゼンテーションを行う。
- EMEC（Emergency Medical Evaluation and Care）が教える診療手順を習得する。
- JATEC（Japan Advanced Trauma Evaluation and Care）が教える外傷初期診療について グループディスカッションに参加する。
- 大阪市消防局の救急車に同乗し実習を行う。

● **授業内容・授業計画**

日程詳細は学習ガイド参照

※　指定された担当患者について、診療に参加するとともに、病態・治療経過をレポートとしてまとめる。

※　ICU 指導・EMEC 指導・JATEC 指導を適宜実施する。尚、救急患者の搬入、入院患者の処置等があれば、時間変更や中止の場合がある。

※　火曜日に大阪市消防局の救急車に同乗する。

※　期間中に一回の当直に参加する。

※　Dr Car 出動の際には学生も同乗する。

※　集合場所・集合時間については、変更が生じることがあるため、毎朝確認すること。

● **事前・事後学習の内容**

・　M4 での系統講義を復習して、救急医療についての理解を深めておくこと。

● **評価方法**

・　実習への出席・参加態度（当直を含む）

・　口頭試問による理解度の確認

・　実習最終日に提出するレポートの内容

・　大阪市消防局救急隊員からの評価　　など

※　レポート・出席の有無・当直・救急車同乗実習についてはすべてを進級の評価対象とする。

● **受講生へのコメント**

・　救急医療を担当する医師として相応しい服装・態度で患者や家族に接すること。

・　実習・講義に積極的に参加すること。

・　他の医師や医療従事者・消防職員らと良好な人間関係を形成すること。

・　救急車同乗実習については、将来医師となるものとして恥ずかしくない適切な態度で望むこと。

・　救急車同乗実習について､前週金曜日 17 時から学舎 9 階救急医学医局でオリエンテーションを行う。遅刻・欠席した者は救急車同乗実習には参加させない。前週の金曜日が休日の場合は、代替日を事前に連絡する。

● **教材**

参考書を以下に示す。

・日本外傷学会 編集（へるす出版）: 外傷初期診療ガイドライン

・Advanced Medical Life Support（へるす出版）

・日本救急医学会 編集 : 標準救急医学

● **対象学年**

5 年生

● **コアカリキュラムへの対応**

G-4-1)-（7）　救急医療臨床実習に該当

● **該当するコンピテンス**

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅳ 基本的総合診療能力 （智、仁、勇）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● **その他**

ユニット名（E）

開講年度 2019 年

科目名	拡大ＣＰＣ	単位数	ー	授業形態	講義	科目ナンバー	ー
英語表記	Clinico-pathological conference						

● 担当教員

大澤　政彦（診断病理・病理病態学）

● 科目の主題

死亡症例を題材にしながら、疾患についての病態・診断・治療についての最新知見を学ぶとともに臨床・病理相関についての理解を深める

● 授業の到達目標

研修医、学部学生を含めた臨床・病理検討会 CPC(Clinico-pathological conference)を通じ希少例、教育的な症例などを対象に、より広範かつ詳細な臨床・病理相互の検討ができるようになる。

● 授業内容・授業計画

授業内容

１．剖検例の提示
　臨床経過、病態解析、臨床診断、画像診断、病理診断などについての説明

２．ミニレクチャー
　数名の専門家による、疾患概念・メカニズム、診断のポイント、治療戦略などに関する最新の知見についてのミニレクチャー、残された課題、今後の戦略・展望についてのミニレクチャーまたは総合討論

３．質疑応答

授業日時・場所

4 月に年間の開催予定日を掲示板にて周知する。
学舎 4 階　大講義室　17：15〜19：15

● 事前・事後学習の内容

● 評価方法

年に 4 回開催する拡大 CPC へ 5 年生及び 6 年生で 3 回以上参加する。

● 受講生へのコメント

● 教材

● 対象学年

5 年生・6 年生

● **コアカリキュラムへの対応**

C-4

● **その他**

5 年生及び 6 年生で所定の回数以上参加しなければ 6 年生に留年する。

開講年度 2019 年

科目名	選択型ＣＣ	単位数	ー	授業形態	実習	科目ナンバー	MACLI3601
英語表記	Elective CC						

● 担当教員

① 選択先施設教育担当医師（臨床教授、臨床准教授、臨床講師、その他教育協力医師）

● 科目の主題

診療参加型臨床実習の集大成となる。

1. プロフェッショナリズム
2. コミュニケーション力
3. 医学および関連領域の知識
4. 基本的総合診療能力
5. 科学的探究心
6. 教育マインド
7. グローバルシンキング
8. 大阪住民の幸福と発展への貢献力

の８つの実践的能力を、この最後の診療参加型臨床実習にて身につける。

● 授業の到達目標

《一般目標》

1. プロフェッショナリズム
2. コミュニケーション力
3. 医学および関連領域の知識
4. 基本的総合診療能力
5. 科学的探究心
6. 教育マインド
7. グローバルシンキング
8. 大阪住民の幸福と発展への貢献力

《到達目標》

1. プロフェッショナリズム
   適切な医療面接を行うことができる。
   適切な患者と医師の関係を築くことができる。
2. コミュニケーション力
   患者、他職種医療職者、他医師と適切なコミュニケーションをとることができる。
   適切な診療記録とプレゼンテーションができる。
3. 医学および関連領域の知識
   医学および関連領域の知識に基づき、問題志向型システムを活用し、臨床診断推論ができる。
   症候・病態からアプローチし、臨床診断推論ができる。

4. 基本的総合診療能力
   バイタルサインを評価でき、全身状態を診断することができる。
   患者中心のチーム医療に参加できる。
   リハビリテーションに参加できる。
   介護と在宅医療に参加できる。
5. 科学的探究心
   科学的根拠に基づいた医療を実践できる。
6. 教育マインド
   Teaching is Learning を理解できる。
   同僚の医師に自らの経験と知識を伝え、それにもとづき議論と質疑応答ができ、その議論を通じ、自らも学びをえることができる。
7. グローバルシンキング
   基本的な診療を英語で行うことができる。
8. 大阪住民の幸福と発展への貢献力
   診療参加型地域医療臨床実習において、大阪府内地域の医療機関で実習し、大阪府内地域の医療の実情、特性を理解する。

● 授業内容・授業計画

12 週間を 6 週間ずつ、前半、後半に分割する。原則は、前半 6 週間で 1 つの医療施設、後半 6 週間で 1 つの医療施設で、診療参加型臨床実習を実施する。国外の医療施設を選択することも可能である。

● 事前・事後学習の内容

4 年生で実施した臨床スターター実習、5 年生時に実施した診療参加型臨床実習で学んだことを、事前に自己復習する。事後も自己復習をする。

● 評価方法

すべての実習への出席を必須とする。担当者の評価（実習や討論への参加状況など）をもとに進級判定する。

● 受講生へのコメント

● 教材

● 対象学年

6 年生

● コアカリキュラムへの対応

G 臨床実習

● 該当するコンピテンス

「授業の到達目標」参照

● その他

選択型 CC 実習病院選択に関する内規

平成 29 年 2 月 21 日
教 務 委 員 会 決 定

１．海外での実習については、本要項に含めない。

２．実習病院は、教育協力病院および本学附属病院から選択する。

３．実習病院選択においては、4 年生における以下の成績が上位の者から選択する。
科目（成績採用率）
・前期：共用試験 CBT（IRT 標準スコア 100%）
共用試験 OSCE（総得点 50% + 概略評価×10）の合計
・後期：臨床臓器別講義（100%）
プライマリケア医学（10%）の合計
（TBL で学ぶ症候学、漢方医学入門含む）

４．専門に偏らず幅広い病院、診療科ならびに症例を学習する観点から、前期と後期は同病院、本学附属病院においては同診療科を選択できない。

５．実習病院を選択した後の変更は受け付けない。
ただし、実習病院の都合により、受入内容が変更になる可能性がある。

６．その他、教務委員会の裁量枠を設ける。

附　則
この内規は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
（改正　平成 30 年 4 月 1 日）

開講年度 2019 年

科目名	保健所・保健福祉センター実習	単位数	―	授業形態	講義 実習	科目ナンバー	―
英語表記	Special lecture on Public Health Office and Practice at Health and Welfare Center						

● 担当教員

福島 若葉（公衆衛生学）、吉田 英樹（大阪市保健所長）他

● 科目の主題

我が国では「地域保健法」に基づき公衆衛生の第一線機関として保健所が整備され、地域保健の広域的・専門的、技術的拠点としての機能を遂行している。また、地域住民に身近な保健サービスを総合的に行う拠点として、保健センターが設置されている。本実習では、これらの機関で展開される事業や個別活動を学習する。

大阪市は平成12年度から、従来の24保健所を1保健所24保健センターに改組した。平成15年度以降は、保健センターに健康福祉サービス課と福祉事務所を統合し、名称を保健福祉センターに変更した。従って、都道府県立保健所と政令市立・特別区立保健所の機能の差、大阪市における保健所と保健福祉センターの役割について、特に注意を払って学習することが重要である。

● 授業の到達目標

- ✓ 保健所と保健センターが担う役割を説明できる。
- ✓ 大阪市保健所および大阪市各区保健福祉センターで展開される事業や活動内容を学ぶ。
- ✓ 関係機関との連携体制のもとで実施される地域保健・福祉対策について理解する。

● 授業内容・授業計画

9月初旬（1週間）

大阪市保健所の事業および大阪市各区保健福祉センターで展開される個別活動を学習する。

スケジュール	内容
1日目	オリエンテーション 保健所・保健福祉センターの概要　（大阪市保健所長による講義） 事前学習（各区の地域診断など）
2～4日	保健福祉センターにおける個別活動の学習
5日目	実習成果報告会（自主発表形式）
（終了後）	レポート提出

● 事前・事後学習の内容

配属された区の特性（人口静態・動態、各疾患の保有率などの健康指標）について事前学習を行ない、各自で要点を整理してから、実習に臨むこと。

● 評価方法

- ✓ 実習は教務委員会が定めるやむを得ない理由による欠席を除き、原則として全て出席しなければ、評価を受けることができない。
- ✓ 成果発表の内容、および終了時に提出するレポートによって評価する。
- ✓ レポートは、オリエンテーション時に配布された「保健所・保健福祉センター実習レポートの様式」に従って作成し、指定期日までにコピーを**含め３部提出すること。**

● 受講生へのコメント

- ✓ 業務多忙な時期に実習させていただくことをわきまえ、真面目に取り組むこと。
- ✓ 保健福祉センターの担当者の方の指示に従うこと。
- ✓ 保健福祉センターの職場の規律、秩序を乱すようなことはしないこと。
- ✓ 一般市民の方も多く来られ、市民と直接接する場所であることを認識すること。
- ✓ 実習学生としてふさわしい態度、言動、服装を保持すること。服装については、ジーンズ・Tシャツ・サンダル等は不可とし、シャツは衿付のもの、ズボンは普通のスラックス、靴は普通の革靴を着用し、必ず名札を装着すること。
- ✓ 欠席・遅刻・早退などをしないこと。万一、やむを得ず欠席等の場合は、必ず事前に保健福祉センターへ直接連絡し、許可を得ること。
- ✓ 実習を通じてお世話になった保健福祉センターの職員の方々との人間関係を大切にすること。

● 教材

国民衛生の動向、厚生統計協会、（毎年８月に発行）

● 対象学年

6 年生

● コアカリキュラムへの対応

○ 医学教育モデル・コア・カリキュラム

A　医師として求められる基本的な資質・能力
A-1　プロフェッショナリズム
A-2　医学知識と問題対応能力
A-4　コミュニケーション能力
A-5　チーム医療の実践
A-7　社会における医療の実践
A-8　科学的探究
A-9　生涯にわたって共に学ぶ姿勢

B　社会と医学・医療
B-1　集団に対する医療
B-3　医学研究と倫理
B-4　医療に関連のある社会科学領域

● 該当するコンピテンス

Ⅰ プロフェッショナリズム （智、仁、勇）
Ⅱ コミュニケーション力 （智、仁、勇）
Ⅲ 医学および関連領域の知識 （智）
Ⅴ 科学的探究心 （智）
Ⅵ 教育マインド （仁）
Ⅶ グローバルシンキング （智、仁）
Ⅷ 大阪住民の幸福と発展への貢献力 （智、仁、勇）

● その他

特記事項なし